

平成30年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

伊那市教育委員会

## 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

- 伊那市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施するものです。

（参 考）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、平成29年度伊那市教育委員会重点施策の達成状況を対象とします。
- 上記重点施策に関連する事務事業は、2～3ページの一覧表のとおりです。
- 自己評価については、概ね下記の基準によります。

評価	内 容
a	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
b	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
c	一定の成果は上がっているが課題もあり、改善の必要がある
d	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

- 「教育委員会評価委員」による点検・評価についての意見は、最終ページに記載しています。

平成29年度伊那市教育委員会重点施策に関連する事務事業一覧

No.	重点施策	事務事業名	評価	備考
第1節 学校教育の充実				
1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進				
1-1	学校教育の充実	総合的な学習	a	学校教育課
1-2		キャリア教育の推進	b	学校教育課
2		学力向上	b	学校教育課
3		幼保小中の連携	b	学校教育課
4		読書活動の推進	b	学校教育課
5		特別支援教育	b	学校教育課
6		外国籍児童生徒の支援	b	学校教育課
7		給食運営・給食施設整備	b	学校教育課
8	教育環境の整備促進	学校施設の耐震化・改修整備	a	学校教育課
9		学校備品整備・情報教育	a	学校教育課
1-2: 高校教育・大学教育との連携				
10-1	高等学校支援	高等学校振興	b	学校教育課
10-2		私立高等学校振興	b	学校教育課
11	大学との連携推進	信州大学・東京藝術大学との連携	b	学校教育課
1-3: 心の教育及び支援体制の充実				
12	心の教育と支援	中間教室	b	学校教育課
13		子育て教育支援相談、家庭児童相談	b	学校教育課
14		不登校児童生徒支援ネットワーク	b	学校教育課
15		子どもと親の相談員配置	b	学校教育課
16		スクールカウンセラー配置	b	学校教育課
第2節 生涯学習・芸術文化の振興				
2-1: 生涯学習の振興				
17	生涯学習・社会教育の推進	市民大学・市民大学大学院	b	文化振興課
18		桜大学	a	生涯学習課
19-1		長谷生涯学習講演会	b	生涯学習課
19-2		親孝行の讃歌事業	a	生涯学習課
20	公民館活動の推進	集会施設建設等補助	b	生涯学習課
21		公民館建設(施設管理)	b	生涯学習課
22		公民館共同事業	b	生涯学習課
23		公民館事業	b	生涯学習課
24	図書館の充実	蔵書管理	b	文化振興課
25		図書館イベント	b	文化振興課
26		図書館分館	b	文化振興課
27	生涯学習センターの充実	生涯学習センター	b	文化振興課
28	人権同和教育の推進	社会人権同和教育	b	生涯学習課
29		学校人権同和教育	b	学校教育課

2-2: 青少年健全育成と家庭教育の充実				
30	青少年の健全育成	学童クラブ	b	生涯学習課
31		少年補導委員会・少年補導センター	b	生涯学習課
32		青少年育成対策	b	生涯学習課
33		成人式	b	生涯学習課
2-3: 文化の振興				
34	文化事業などの充実	伊澤修二記念音楽祭	a	生涯学習課
35		い〜な音楽祭	b	生涯学習課
36		市民音楽祭	b	生涯学習課
37		信州伊那井月俳句大会	b	生涯学習課
38		進徳館の日	b	生涯学習課
39		伊那能	b	生涯学習課
40	博物館などの整備・活用	創造館	a	文化振興課
41		高遠町歴史博物館	b	文化振興課
42		信州高遠美術館	b	文化振興課
第3節 文化財の保存・継承・活用				
3-1: 文化財の保存・継承・活用				
43	文化財の保存・継承・活用	史跡高遠城跡	b	生涯学習課
44		民俗資料館	b	文化振興課
45		旧井澤家住宅	b	生涯学習課
46		民俗文化の伝承	b	生涯学習課
第4節 スポーツ・レクリエーションの振興				
4-1: 豊かなスポーツライフの実現				
47	スポーツライフの実現	市民体育祭	b	スポーツ振興課
48		総合型地域スポーツクラブ	a	スポーツ振興課
49		春の高校伊那駅伝	a	スポーツ振興課
50		ソフトボールの振興	a	スポーツ振興課
51		体育施設の整備	a	スポーツ振興課

## 第1節 学校教育の充実

### 1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進

豊かな人間性や社会性を身に付け、自ら学び、自ら考える「生きる力」を育むため、地域の自然、歴史、産業等に根ざした特色ある教育を進めます。また、基礎・基本の学力の確実な定着を図るとともに、一人ひとりの個性や人権を尊重した教育の充実をめざします。

#### (1) 学校教育の充実

事務事業	No.1-1	総合的な学習	H29年度決算額	5,128千円
事業の目的	子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切に伊那市らしい総合的な学習を推進します。			
事業内容	各学校が主体的に取り組む「体験学習」、「交流学習」、「体力づくり」など創造的な学習の支援			
達成状況	○全小中学校において、地域の特色を活かした総合的な学習を実施しました。 ○創造的活動推進事業交付金、信州型コミュニティ・スクール交付金を、全小中学校に交付しました。			
	区分	学校名	平成29年度主な取り組み	
	小学校	伊那	動物飼育(やぎ・羊他)、農作物栽培と調理、伝統文化の学習など	
		伊那東	稲・野菜栽培、伊那まつり踊り練習と参加、高齢者等との交流など	
		伊那北	稲・野菜栽培と調理、里山利用と整備活動、伊那節の探究など	
		伊那西	稲・野菜・シイタケ栽培、酪農体験、伊那西部保育園活用など	
		富県	稲・小麦・野菜栽培、豆腐・ピザ作り、縄ない、保育園との交流など	
		新山	地域学習と養蚕、白毛餅・野菜栽培、パン作り、新山まつり参加など	
		美篤	もち米・小麦・野菜栽培・調理、注連縄づくり、地域学習など	
		手良	稲・野菜栽培、収穫物調理、手良っこ太鼓、給食・ICT交流など	
		東春近	老健交流、稲・野菜栽培、味噌作り、りんご体験、和太鼓演奏など	
		西箕輪	稲、大豆、羽広菜栽培、ぶどう手入れ、老健・養護学校との交流など	
		西春近北	野菜栽培、権現太鼓、犬房丸ものがたり、老健交流など	
		西春近南	稲・小麦・野菜栽培と調理、うずら飼育、化石採取、百人一首など	
		高遠	稲・小麦・野菜栽培、糰づくり、桜の学習、高遠焼、史跡めぐりなど	
		高遠北	そば、野菜栽培、高遠そば作り、養護学校との交流、音楽劇など	
	長谷	稲・野菜栽培、孝行猿の劇公演、老健交流、ひょうたんづくりなど		
	中学校	伊那	ふるさと伊那谷学(農業体験、職場体験、通り町空き店舗活用)など	
		東部	野沢菜栽培・調理、「ふるさとの先輩から生き方を学ぶ会」など	
		西箕輪	シイタケ栽培、伊那養護学校との交流、職場体験、和太鼓演奏など	
春富		農業体験、職場体験、進路学習、ふるさと上伊那学など		
高遠		森林学習、キャリア教育、観桜期プロジェクト、アセアン交流など		
長谷	地域学習「入野谷学習」、「畑の時間」、進路学習、福祉学習など			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】総合的な学習の位置づけを常に明確にする必要があります。また、「体験学習」や「交流学習」を通して総合的に「生きる力」や「人間関係力」を養う必要があります。</p> <p>【方向性】意欲に関わる学力の伸長を大切に考え、地域の自然や文化・伝統など体験を通して行なわれる総合的な学習を推進します。また、信州型コミュニティ・スクール事業に取り組み、地域に開かれた学校づくりを推進します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.1-2	キャリア教育の推進	H29年度決算額	2,445千円
事業の目的	子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を育むために、学校、家庭、地域、産業界、行政が協働してキャリア教育の推進に取り組みます。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伊那市キャリア教育推進委員会の運営</li> <li>○職場体験学習の実施</li> <li>○キャリアフェスの実施</li> <li>○キャリア教育産学官交流会、「夢大学」の開催</li> </ul>			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内中学生を対象に学校、事業所と連携を図りながら職場体験学習を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施生徒数 686人 平均実施日数 3日</li> <li>・受入事業所数 184か所 (H27:192か所、H28:192か所)</li> </ul> </li> <li>○中学生が新たな出会いや発見を体感しながら、地域の良さを改めて実感し、未来を考える機会として、キャリアフェス in 春富中を開催しました。</li> <li>○「伊那北小ハローワーク」や富県小学校、手良小学校のPTA主体のキャリア教育関連行事などの取組により、小学生が働くことの楽しさややりがいを感じ取り、様々な職業の特色を知る機会となりました。</li> <li>○上伊那地域の産学官の交流や意見交換を通じて、今後のキャリア教育プログラムの充実、次世代育成活動の推進を図るために、キャリア教育産学官交流会を開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者 255人 (H27:161人、H28:274人)</li> </ul> </li> <li>○次世代を担う若者が郷土を知り、郷土に対する思いを深める機会として、「夢大学」を開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者 42人 (H27:84人、H28:62人)</li> </ul> </li> </ul>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 職場体験学習の実施に係る事務手続き等の流れは定着してきましたが、生徒・学校と受入事業所との目的、理念の共有をさらに図っていく必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 事前事後学習等を通じて生徒一人一人に目的意識を持たせるための支援を行うとともに、地域で子どもを育てるといふ伊那市キャリア教育憲章のビジョンを関係者間で共有する取組を推進します。また、キャリア教育の一貫性、継続性を担保するため、小学校、高校等との連携を図ります。</p>			
自己評価	b			



放課後学力向上支援事業から (伊那中学校)



キャリア教育 (キャリアフェス in 春富中)

事務事業	No.2	学力向上	H29年度決算額	4,965千円
事業の目的	<p>自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るため、学力検査の結果などを基に授業改善などに努め、児童生徒一人ひとりの実態に応じた学習指導を行います。</p> <p>また、中学校の放課後行われる自発的な学習活動を支援します。</p>			
事業内容	<p>○標準学力検査（NRT）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学4年生（603人）算数・小学5年生（649人）国語、算数、</li> <li>・中学2年生（651人）国語、数学、英語</li> </ul> <p>○学力検査結果の分析と授業改善</p> <p>○中学生の放課後学習支援事業の実施</p> <p>○小学生の学力向上支援（授業中、業間、放課後）事業の実施</p> <p>○読み書きにつまずきのある児童の早期発見・支援事業の実施</p>			
達成状況	<p>○伊那市が標準学力検査（NRT）を始めて15年が経過し、小中学校共に基礎・基本の学力の定着がみられます。各校においては、検査結果の分析を基に個別指導、授業改善に取り組むとともに、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」など生活習慣の定着を進めました。</p> <p>○教育長、指導主事、学校長で構成する「学力向上検討委員会」を設置し、検査結果の検討、分析を行うとともに、「学力向上のための実践事例発表会」を開催し、検査結果を基にした授業改善の発表と模擬授業を行いました。</p> <p>○中学校の放課後学習支援員を募集、委嘱し、中学生の学力向上を支援しました。 受講生徒数 561人（H27: 518人、H28: 552人） 支援員数 59人（H27: 50人、H28: 52人）</p> <p>○小学校の学習支援員による学力向上支援事業を行いました。 受講児童数 926人（H28: 995人） 支援員数 58人（H28: 58人）</p> <p>○平成28年度より全小学校の1年生にMIM(多層指導モデル)の導入をしました。また、読み書き・漢字学習法についての研修を実施しました。</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b>平成29年度に市が実施した標準学力検査では、小学校5年の国語・算数、中学校2年の国語・数学において学力の定着が認められますが、小学校4年生の算数及び中学校英語に若干の課題がみられます。しかし、全国平均とのポイント差はわずかであり、各教科とも全国標準の範囲内にあるといえます。</p> <p>また、新学習指導要領で小学校における外国語教育が拡充されたことに伴う授業時間の確保、学習体制の構築が課題となっています。</p> <p><b>【方向性】</b>学力検査などの分析を、児童生徒一人ひとりの学習指導に活かすとともに、体験的な学習やグループ学習を取り入れ、授業をもっと良くする3観点を意識した授業改善に取り組み、児童生徒の自発的な学習を促進します。</p> <p>また、家庭や地域などと連携し、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」などの定着を図るとともに、家庭学習、ドリル学習等の充実を図ります。さらに、学力向上支援ボランティアの募集を行い、各校のカリキュラムに応じた学力向上支援事業に取り組みます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.3	幼保小中の連携	H29年度決算額	0千円
事業の目的	<p>保育園・幼稚園と小学校双方が幼児期から学童初期における子どもの発達と活動（遊びと教育）についての理解を深め、育ちや学ぶ意欲がスムーズに引き継がれ、健やかな成長を支援できるよう幼児教育と小学校教育の双方の質の向上を図るとともに、中一ギャップと言われる中学校進学時の不登校の増加など、学校不適應への適切な対応を図ります。</p> <p>子どもが抱える課題などについて早い時期から情報の共有を図り、早期に適切な支援を行い、不適應、不登校等への早期対応、未然防止を図ります。</p>			
事業内容	<p>○幼保小連絡会、小中連絡会の開催 ○学校行事等を通じた児童生徒の交流</p> <p>○保育士、小・中学校教員の相互体験 ○幼保小・小中連携推進委員会開催</p> <p>○幼保小連携プログラム「伊那市版幼保小連携プログラム」の実践</p>			
達成状況	<p>○保育士・小学校教職員の相互1日体験を実施、子どもの実態を体験的に感得することで双方の意識変革を促す取組になっています。</p> <p>○「幼保小連携推進委員会」において作成した伊那市版「幼保小連携プログラム」に基づく、地域の特性を生かしたアプローチ・スタートカリキュラムの作成、実践により、保育園から学校へのスムーズな連絡が図られました。</p> <p>○支援を要する子どもを対象に「成長ダイアリー」を作成し、幼・保・小・中・高の情報共有を図っています。</p> <p>○一日入学、運動会、音楽会、文化祭など学校行事への参加、クラス交流、中学校教職員の小学校での出前授業等、入学、進学への期待感を育みました。</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b>小1プロブレム、中1ギャップと言われる進学時の学校不適應への対応が求められています。</p> <p><b>【方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒、教職員間の相互交流などを通じ心的距離の縮小を図ります。</li> <li>・伊那市版「幼保小連携プログラム」の内容について、教職員、保育士が理解を深める合同研修会を実施するとともに、カリキュラムの実践、検証、見直しを進めます。</li> </ul>			
自己評価	b			

事務事業	No.4	読書活動の推進	H29年度決算額	47,442千円
事業の目的	<p>心豊かな人間性と自ら学ぶ学習意欲を育むため、学校図書館の充実を図るとともに、読書活動を推進します。</p>			
事業内容	<p>○図書館司書の配置</p> <p>○読み聞かせボランティアの活用及び充実</p> <p>○学校図書館システム導入</p>			
達成状況	<p>○「朝読書」などの全校一斉読書、地域のボランティア等による読み聞かせを全小中学校行っています。</p> <p>○全校に配置した学校図書館司書（17人うち2校勤務4人）が、読書活動や図書館活用の支援、読書環境の充実に力を発揮しています。</p> <p>○図書館システムを全小中学校に導入しました。</p> <p><b>【参考】</b>図書館の本の1人当たり平均貸出冊数</p> <p>小学校 114冊（H26：110冊、H27：112冊、H28：109冊）</p> <p>中学校 29冊（H26：32冊、H27：35冊、H28：29冊）</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b>読書習慣の定着、自主的、主体的学習活動の支援、情報の収集、選択、活用能力の育成が求められています。また図書館システムのスムーズな本格稼働に係る研究や検討を行います。</p> <p><b>【方向性】</b>引き続き学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、図書館を活かし子どもの読書活動や調べ学習を支える図書館司書を配置します。</p>			

	読み聞かせボランティアの活用を図り、読書活動を推進します。 図書館システムを有効活用した読書活動及び調べ学習を充実していきます。
自己評価	b

事務事業	No.5	特別支援教育	H29年度決算額	58,740千円																																		
事業の目的	知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害等心身に障害のある幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。																																					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育支援介助員・講師の配置</li> <li>○ 伊那中央病院院内学級の設置、運営</li> <li>○ 「ことばの教室(伊那小学校内)」「まなびの教室(伊那北小学校・東部中学校内)」の設置、運営</li> <li>○ 特別支援教育就学奨励費の支給</li> </ul>																																					
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援学級に在籍する児童生徒の増加に対応するため、特別支援教育支援員を市費で配置しました。</li> </ul> <p><b>【参考】特別支援学級在籍児童生徒数・クラス数・支援員数</b></p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">小学校</th> <th colspan="2">中学校</th> <th rowspan="2">支援員数 内( )講師数</th> </tr> <tr> <th>児童数</th> <th>クラス数</th> <th>生徒数</th> <th>クラス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度</td> <td>185</td> <td>40</td> <td>67</td> <td>15</td> <td>25(1)</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>213</td> <td>40</td> <td>75</td> <td>17</td> <td>28(1)</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>229</td> <td>44</td> <td>91</td> <td>18</td> <td>32(1)</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>225</td> <td>44</td> <td>112</td> <td>20</td> <td>37(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">特別支援教育就学奨励費の支給 208人 (H26:159人、H27:187人、H28:201人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 副学籍制度による、特別支援学校に就学する児童生徒と居住する地域の小中学校の児童生徒の交流及び共同学習の拡充に努めました。(副学籍児童生徒55名)</li> </ul>					小学校		中学校		支援員数 内( )講師数	児童数	クラス数	生徒数	クラス数	平成26年度	185	40	67	15	25(1)	平成27年度	213	40	75	17	28(1)	平成28年度	229	44	91	18	32(1)	平成29年度	225	44	112	20	37(1)
	小学校		中学校			支援員数 内( )講師数																																
	児童数	クラス数	生徒数	クラス数																																		
平成26年度	185	40	67	15	25(1)																																	
平成27年度	213	40	75	17	28(1)																																	
平成28年度	229	44	91	18	32(1)																																	
平成29年度	225	44	112	20	37(1)																																	
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b>特別支援学級に在籍している児童生徒数が増加するとともに、自・情障学級では、学年が上がっても在籍児童数が減少しない傾向にあります。また、通常学級において学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、広汎性発達障害等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、支援体制の充実が求められています。</p> <p><b>【方向性】</b>関係機関との連携を図り、子どもの教育的ニーズに最も的確に答える支援を提供するとともに、ノーマライゼーションの観点からも、自・情障学級から通常学級への転籍に向けた支援のあり方を検討する必要があります。</p> <p>また、児童生徒、保護者等が障害への理解を深めるとともに、特別支援学校に通う子どもたちが、友だちとの繋がりや地域での存在感を継続できるよう副学籍制度の充実に努めます。</p>																																					
自己評価	b																																					

事務事業	No.6	外国籍児童生徒の支援	H29年度決算額	7,198千円
事業の目的	通訳、相談、学習支援等の支援体制を整備し、外国籍児童生徒の学校生活への適応、学力の定着を図る。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本語教室の設置、運営(伊那東小、伊那北小、東部中)</li> <li>○ 外国語児童生徒支援相談員の設置(伊那東小、伊那北小、東部中) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の学習及び学校生活の支援、家庭への便りの作成、家庭との連絡、通訳等</li> </ul> </li> <li>○ 発達障害等特別支援を必要とする外国籍児童の支援介助、家庭と学校との連絡、通訳等に当たる支援員の配置(伊那東小)</li> </ul>			

達成状況	外国籍児童生徒に対する、通訳、相談、学習等の支援を継続して行いました。 <b>【参考】</b> 外国籍児童生徒数			
		伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校
	平成26年度	32	26	23
	平成27年度	33	29	29
	平成28年度	34	31	32
	平成29年度	33	39	36
その他 小学校6校17人、中学校3校9人				
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 障害があり特別な支援を必要とする外国籍児童への対応や、多様な言語への対応も必要となっています。 <b>【方向性】</b> 日本語教室の設置、運営と外国語児童生徒支援相談員等の適切な配置を引き続き行います。			
自己評価	b			

事務事業	No.7	給食運営・給食施設整備	H29年度決算額	626,994千円
事業の目的	児童生徒が食事に関する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるため、栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食育を推進します。			
事業内容	○給食運営 ○栄養士、給食技師の配置			
達成状況	給食技師の臨時職員化、食材の共同購入により、経費の削減を図るとともに、栄養士を各学校及び調理場に配置することにより、食育の推進を図り、地産地消の安全安心な美味しい給食を提供しました。(平成29年度県内産食材利用率 約58.1%) <b>【参考】</b> 給食提供数 1,294,995食 (H27:1,330,361食、H28:1,314,254食) 給食技師数75人 (H27:66人、H28:72人) 給食1食あたりの経費 185円 (H27:176円、H28:187円) 伊那市学校給食施設整備計画に沿って給食施設の整備を行いました。 ・伊那北小学校給食調理場の建設 309,737千円(一部繰越明許) ・伊那西小学校多目的施設の建設 54,677千円(繰越明許分) ・給食配送車の購入(伊那中・伊那西共同調理場から伊那西小へ配送) 5,497千円			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 子どもに安全安心、そして美味しい給食を提供するとともに、子どもの食に対する理解を深める必要があります。 <b>【方向性】</b> 各学校と連携を取りながら、本格的な農業体験に基づく作物の育成、食材の生産及び食に対する「いただきます」「もったいない」の感性を育む食農体験事業「暮らしのなかの食」の取り組みを小中学校21校で継続します。また、人的配置、食材調達など効率的な給食運営を図るとともに、計画的に給食施設の整備を行います。			
自己評価	b			



全校飯盒炊飯



野菜の収穫

## (2)教育環境の整備促進

事務事業	No.8	学校施設の耐震化・改修整備	H29年度決算額	249,272千円
事業の目的	<p>○児童生徒の安全確保と地域の防災拠点の整備を図るため、小中学校施設の非構造部材耐震化とトイレの改修を行います。</p> <p>○施設の維持管理を行うとともに、教育環境の改善を図るため、校舎内外の大規模改修整備を行います。</p>			
事業内容	<p>○耐震化工事 平成27年度より、各校体育館の非構造部材（天井材・窓ガラス・照明器具等）の耐震化を進めています。</p> <p>○改修工事 耐震化工事と併せて屋根・外壁の改修を進めています。</p>			
達成状況	<p>○非構造部材耐震化他工事の実施</p> <p>(1)伊那北小学校体育館（非構造部材耐震化・LED照明改修）</p> <p>(2)手良小学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED照明改修）</p> <p>(3)西箕輪中学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED照明改修）</p> <p>※小中学校の体育館非構造部材耐震化率 平成29年度末：64.0%（25棟中16棟）</p> <p>○トイレ改修工事の実施</p> <p>(1)西箕輪中学校（管理教室棟・体育館 計8箇所）</p> <p>○大規模改修工事等</p> <p>(1)手良小学校管理教室棟外壁・屋根改修</p> <p>(2)伊那小学校児童玄関サッシ改修</p> <p>(3)西箕輪小学校ペレットストーブ設置（6教室）</p> <p>(4)西春近南小学校管理教室棟屋根防水改修</p> <p>(5)高遠北小学校プールフェンス改修</p> <p>(6)手良小・美篤小・西春近北小・西箕輪小学校オイルタンク地上化</p> <p>(7)高遠中学校管理教室棟外壁・屋根改修</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 体育館の非構造部材耐震化を平成32年度末までに終了させたいが、国の交付金事業が未採択となり、今後の先行きが不安視されます。</p> <p><b>【方向性】</b> 平成31年度までに「学校施設長寿命化計画（個別計画）」を策定し、国などの有利な財源を活用のうえ、体育館の非構造部材耐震化工事を推進していきます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.9	学校備品整備・情報教育	H29年度決算額	104,491千円
事業の目的	情報教育を含む教育環境の充実を図るため、教材備品及び情報機器の整備を推進します。			
事業内容	<p>○一般教材・理科教材備品の整備</p> <p>○タブレット端末、校務用パソコン、電子黒板セット等の環境整備</p> <p>○「ICT教育部会」における「学校教育の情報化ビジョン」の作成</p> <p>○文科省委託事業（少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業3年間のまとめ）</p>			
達成状況	<p>○必要な教材備品及び情報機器を整備しました。</p> <p>○伊那市小中学校情報委員会を開催し、テーマ別グループによる活動報告を行いました。</p> <p>○平成29年度は、iPad311台、電子黒板セットを59台導入しています。</p> <p><b>【参考】</b> タブレット端末の総数 762台（リース継続分＋寄付分＋レンタル分）</p>			

	<p>電子黒板及び周辺機器整備台数 65セット (12校)          小中学校の無線LAN環境の整備率=52% (市内小中学校 21校中 11校)</p>	
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 新学習指導要領に対応する教材備品の整備と、情報機器等の適切な管理を行う必要があります。また、パソコン・タブレット等を上手に活用する方法を身につける必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 学校からの要望に基づき、教材備品や情報機器（タブレット他）を整備するとともに積極的に研修会を開催して先生方の指導力向上を目指します。また、情報セキュリティ意識の向上と正しい利用のための情報モラル教育を進めます。</p>	
自己評価	a	

## 1-2：高校教育・大学教育との連携

高等学校教育の充実のための支援を実施するとともに、大学との連携により、高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。

### (1) 高等学校への支援

事務事業	No.10-1	高等学校振興	H29年度決算額	3,000千円															
事業の目的	過疎地域高等学校の振興を図るため、高遠高等学校振興会の活動を支援します。																		
事業内容	高遠高等学校振興会活動の支援																		
達成状況	<p>○高遠高等学校振興会へ負担金を支出し振興会事業を支援しました。</p> <p>○平成23年度から振興会で行う通学費補助事業の経費を市で負担しています。</p> <p>○平成7年にコース制導入後、文科省の学力向上実践研究校としての実践研究（平成21年度から3年間）、長野大学、日本福祉大学、東京藝術大学など高大連携の拡充を図るとともに、平成24年度、高遠高等学校の将来像検討委員会を設置し、教育内容の改善、充実に努めています。また、伊澤修二記念音楽祭ほか、地域や保育園、小中学校と連携した取組を進めています。</p> <p>○入学者数の推移</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td> <td>119</td> <td>110</td> <td>110</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>定員</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table> <p>○バス通学費補助 157人、1,600千円（H27:151人、1,600千円 H28:142人、1,600千円）</p>					平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	入学者数	119	110	110	109	定員	120	120	120	120
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度															
入学者数	119	110	110	109															
定員	120	120	120	120															
事業の課題及び方向性	<p>【課題】定員確保、高等学校再編後も存続可能な将来像構築が求められています。</p> <p>【方向性】高遠高等学校は、コース制を導入する等、特色ある学校運営を行っています。地域の魅力ある学校として発展していくためにも、「高遠学園構想」に基づく特色ある教育の拡充、高遠中学校等との連携及び定員確保へ向けた遠距離通学者の利便性を高める支援が引き続き必要です。</p>																		
自己評価	b																		

事務事業	No.10-2	私立高等学校振興	H29年度決算額	1,099千円
事業の目的	地域の私立高等学校の振興を図るため、私立高等学校の運営を支援します。			
事業内容	伊那西高等学校に対する支援 ・職員の待遇改善・福利厚生、保護者の負担軽減等の支援			
達成状況	<p>同校は、市内の生徒を多数受け入れており、地域の高等学校教育に大きな役割を果たし、地域に根ざした高等学校として定着しています。</p> <p>【参考】定額補助 1校当たり600,000円（H22年度から600,000円） 生徒割補助1人当たり2,600円（H22年度から2,600円） 伊那市に住所を有する生徒数192人（26:181人 H27:191人、H28:210人） 全校生徒数507人（H26:505人、H27:515人、H28:527人）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】昭和63年から普通コース、進学コースの2コース制を導入、地域中学校との連携を重視し、受験機会の複数化、特色ある教育の充実及び定員確保に引き続き努めていきます。</p> <p>【方向性】地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を取り巻く厳しい状況を考慮し、学校運営費補助を継続して行います。</p>			
自己評価	b			

## (2) 大学との連携推進

事務事業	No.1 1	信州大学・東京藝術大学との連携	H29 年度決算額	0 千円
事業の目的	高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。			
事業内容	信州大学との地域連携、交流の続く東京藝術大学との連携強化			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中学校での信州大学の教員による作物（アマランサスなど）の栽培指導</li> <li>○信州大学生による中学校学力支援ボランティア登録 10 人（H28:9 人）</li> <li>○信州大学農学部の教職免許取得学生の研修受入れ</li> <li>○信州大学生のボランティアによる通学合宿・おいで塾への協力</li> <li>○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会</li> </ul> </li> <li>○東京藝術大学との連携による高遠町塩俣の古民家を活用した芸術文化の拠点づくり</li> </ul>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 連携を通じ、専門性のある教育を受ける環境の創出とともに、信州大学卒業生の伊那市内企業への就職、市内での就農につながる取り組みが求められています。</p> <p><b>【方向性】</b> 様々な機会を通じ、信州大学・東京藝術大学関係者との意見交換を行い、互恵関係を築く取り組みにチャレンジします。また、長野県工科短期大学校（上田市）に次ぐ県内 2 番目の工科短大として、平成 28 年に開校した南信工科短期大学校との連携により、これからの長野県の産業を支えていく「ものづくりのスペシャリスト」を育成します。</p>			
自己評価	b			

## 1-3：心の教育及び支援体制の充実

小中学校における心の問題や不登校、いじめ問題の解消に努めるとともに、良好な環境の中で子育てができるよう家族全体を支援します。

### (1)心の教育と支援

事務事業	No.1 2	中間教室	H29 年度決算額	3,821 千円
事業の目的	不登校の児童生徒の居場所を確保し、学校復帰へ向け支援、相談及び学習指導を行います。			
事業内容	中間教室の設置 ・適応指導員による相談支援、体験活動、集団活動、学習指導等 <b>【小学部】</b> 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～15:30、会場：やまびこ学級1階 <b>【中学部】</b> 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～16:00、会場：やまびこ学級2階			
達成状況	○中間教室通室児童生徒のうち小学生の 16.6%、中学生の 71.4%が進学又は学校へ復帰しました。 <b>【参考】</b> 通室者数 小学部8人 (H26:6人、H27:3人、H28:6人) 中学部10人 (H26:19人 H27:14人、H28:7人) 通室割合 (通室児童生徒数/不登校児童生徒数) 小学部 57.1% (H26:28.5%、H27:8.1%、H28:60.0%) 中学部 18.9% (H26:31.6%、H27:36.8%、H28:17.0%)			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 長期化した不登校児童生徒への支援が課題であり、未然防止、早期発見、早期対応が求められています。 <b>【方向性】</b> 学校、子ども相談室、医療機関等との連携を図りながら、児童生徒、家庭への早期対応、支援に努めます。			
自己評価	b			

#### ☆ 春富中学校人権宣言

2007年1月19日 春富中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いかなる時もお互いに平等であり、楽しく、安心して学校生活を送っていく権利をもつ。
- 第2条 安心して生活できる学校とは、命を大切に、学校全体に落ち着きがあり、友達を信頼でき、行きたいと思える学校である。そのような学校にするため、私たちは努力しなければならない。
- 第3条 私たちは、個人の性格や容姿、人柄や考え方、身体的な特徴、能力や性別、年齢差などといった個性の違いを理由とした、あらゆる差別や、中傷、いじめなどの行為をしてはならないし、こういった行為を許してはならない。
- 第4条 私たちは学校生活において自分の意見や考えを表現する自由がある。
- 第5条 私たちは、差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしたとき、クラスや学年・生徒会、そして親や先生、友達に助けを求めることができる。
- 第6条 差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしている人を守るため私たちは立ち上がる義務がある。
- 第7条 私たちは、春富中からいじめや差別をなくしていくために、相手の気持ちを考え、思いやりを持って、行動できるよう努力する。

#### ☆ 西箕輪中学校人権宣言

2010年1月21日 西箕輪中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いじめや差別についてよく理解するよう努力し、周りにあるいじめに気付けるようになります。
- 第2条 私たちは、一人ひとりの個性を認め、いじめや差別を絶対に許しません。
- 第3条 私たちは、毎日明るくあいさつをし、みんなが声がけできる環境をつくります。
- 第4条 私たちは、常に相手の気持ちを考えて行動し、温かい言葉で話します。
- 第5条 私たちは、どんな時でも、助け合い、支え合い、励まし合う友達をつくります。

事務事業	No.1 3	子育て教育支援相談、家庭児童相談	H29 年度決算額	29,206 千円
事業の目的	親の養育力と家族機能を高め、子どもが自立へ向けての生きる力を培うため、家族、地域、関係機関が連携し、乳幼児期から思春期まで一貫した相談支援を行います。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係機関との連携及び支援（保健・医療・福祉・教育・警察・司法等）</li> <li>○要保護児童生徒（虐待を受けている児童、非行、虞犯等）の保護</li> <li>○個別ケース支援会議による関係機関の役割分担と連携</li> <li>○就学相談</li> <li>○指定相談支援事業所の運営</li> </ul>			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども相談室を中心に、関係機関と連携して多数の相談や案件に対応しました。</li> <li>○発達障害を持つ子どもが人とうまくかかわっていくための方法を身につけるためのソーシャルスキルトレーニング（SST）や親の養育力の向上を図るためのペアレントトレーニングを実施しました。</li> <li>○児童虐待へ対応を強化するため、関係機関の研修を実施しました。また、個別ケース支援会議を開催し通告後の子供の安全を守るための支援を強化しました。</li> </ul> <p>【参考】相談・支援数 4,978 件（H27：6,374 件 H28：6,018 件）  児童虐待通告件数 53 件 109 人（H27：36 件 77 人 H28：67 件 122 人）  個別ケース支援会議 249 回（H27：165 回 H28：212 回）  教育支援委員会に諮った幼児児童生徒数 132 人（H27：122 人 H28：114 人）  サービス等利用計画作成数：58 人</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】相談件数が増加するとともに、相談内容は多様化し、緊急性が増しています。そこで、相談に適切かつ迅速に対応するため、専門職を配置するとともに、児童福祉法、障害者自立支援法の改正に伴い、小鳩園の相談支援部門と子ども相談室の機能の一本化を図ることにより、ライフステージに応じた様々な子どもの問題に対応できるようになりました。しかしながら、全体の相談件数が多いことから、個別のケースについて、十分対応できていない状況にあります。また、児童虐待については、困難な事例も多く、幅広い見識や専門性の高い対応が求められています。</p> <p>【方向性】今後は問題が深刻化する前に対応するため、関係機関との連携体制の更なる充実と、早期支援等の防止施策や子どもの健やかな育ちを阻む種々の根本要因に対応する施策の検討が求められます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.1 4	不登校児童生徒支援ネットワーク	H29 年度決算額	25,860 千円																				
事業の目的	子ども相談室を中心に、学校、中間教室、福祉、医療、民間支援団体等、関係機関が連携し不登校児童生徒の早期発見、早期対応、支援を行います。																							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校、子ども相談室等が連携し不登校児童生徒の支援に取り組む。</li> <li>○中学校への教員補助員配置</li> <li>○上伊那子どもサポートセンターの運営費支援</li> </ul>																							
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 21 年度以降は増加傾向に歯止めがかかり、一定の成果が表れています。</li> <li>○不登校・不適応の傾向を持つ生徒の生活指導や教科指導を行うため、中学校への市費講師を配置しました。（5 中学校へ 9 人）</li> </ul> <p>【参考】不登校児童生徒数・割合（ ）は%</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>21 人 (0.53)</td> <td>37 人 (0.94)</td> <td>10 人 (0.26)</td> <td>5 人 (0.13)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>58 人 (2.84)</td> <td>38 人 (1.85)</td> <td>41 人 (1.99)</td> <td>41 人 (2.01)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>79 人 (1.31)</td> <td>75 人 (1.26)</td> <td>51 人 (0.86)</td> <td>46 人 (0.79)</td> </tr> </tbody> </table>					H26	H27	H28	H29	小学校	21 人 (0.53)	37 人 (0.94)	10 人 (0.26)	5 人 (0.13)	中学校	58 人 (2.84)	38 人 (1.85)	41 人 (1.99)	41 人 (2.01)	合計	79 人 (1.31)	75 人 (1.26)	51 人 (0.86)	46 人 (0.79)
	H26	H27	H28	H29																				
小学校	21 人 (0.53)	37 人 (0.94)	10 人 (0.26)	5 人 (0.13)																				
中学校	58 人 (2.84)	38 人 (1.85)	41 人 (1.99)	41 人 (2.01)																				
合計	79 人 (1.31)	75 人 (1.26)	51 人 (0.86)	46 人 (0.79)																				
事業の課題及	【課題】早期発見、早期対応等により、不登校を長期化させない対応が必要です。																							

び方向性	【方向性】スクールカウンセラー、子どもと親の相談員等の相談・支援体制の充実を図るとともに、関係機関と連携し対応します。また、児童生徒理解に基づく不登校児童生徒の早期発見・早期対応等、新たな不登校を出さないための取組を進めます。
自己評価	b

事務事業	No.1 5	子どもと親の相談員の配置	H29 年度決算額	11,394 千円
事業の目的	児童生徒やその保護者が抱える不安や、悩みの相談に当たる相談員を小中学校に配置し、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう支援します。必要に応じて子ども相談室、中間教室、スクールカウンセラー等と連携し、不登校、不適応傾向の児童生徒とその保護者の支援を行います。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の話し相手・悩み相談</li> <li>○ 不登校傾向の児童の早期発見・早期対応（家庭訪問含む）</li> <li>○ 不登校児童及び不登校児童をかかえる家庭への対応等</li> <li>○ 市費相談員の配置</li> </ul> <p style="text-align: center;">相談員 11 人を 13 校へ配置（3 校兼務 1 人）</p>			
達成状況	<p>小学校における延べ相談件数 5,807 件 (H26:6,829 件、H27:6,659 件、H28:5,788 件)</p> <p>中学校における延べ相談件数 5,214 件 (H26:7,273 件、H27:4,050 件、H28:5,012 件)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】不登校やいじめに発展する前の早期対応が大事であり、不適応児童生徒やその保護者に対する、相談支援体制の一層の充実が求められています。</p> <p>【方向性】必要に応じ専門機関と連携を図り適時の支援ができるよう、相談体制の充実を図ります。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.1 6	スクールカウンセラーの配置	H29 年度決算額	2,081 千円
事業の目的	児童生徒、保護者及び教職員等に対し、心理的側面から専門的援助を行い、教育相談体制の充実を図ります。			
事業内容	<p>スクールカウンセラーの配置 全小中学校</p> <p>・県費配置 4 人に加え市費による配置時間の上乗せを行い、適時の相談支援に努める。</p>			
達成状況	<p>県から配当された相談時間では十分な対応ができないため、市費で上乗せし対応しました。</p> <p>【参考】相談件数 小学校延べ 318 件 (H26:505 件、H27:504 件、H28:659 件) 中学校延べ 394 件 (H26:601 件、H27:601 件、H28:389 件)</p> <p>相談時間 県費 896 時間 (H26:852 時間、H27:811 時間、H28:733 時間) 市費 438 時間 (H26:268.5 時間、H27:439 時間、H28:294 時間)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】不登校等、児童生徒やその保護者への早期対応が求められていますが、十分な人的配置がされているとは言えない状況にあります。</p> <p>【方向性】県の配当時間を増やすよう働きかけるとともに、市としても必要な時間について対応していきます。</p>			
自己評価	b			

## 第2節 生涯学習・芸術文化の振興

### 2-1：生涯学習の振興

自然や文化、歴史、産業等地域の特徴を生かした生涯学習を推進し、年齢や職業を超えたあらゆる人々が興味を持って学ぶことのできる環境づくりを進めます。

ライフスタイルの多様化などにより、生涯学習に対するニーズや関心は、ますます高まっています。第1次伊那市総合計画に基づき平成22年度末に策定した、生涯学習の総合的な指針「生涯学習基本構想」の基本理念「共に学び、今に生かし、更に深め、未来へとつなぐ」に基づき、生涯学習事業を推進します。

#### (1)生涯学習・社会教育の推進

事務事業	No.17	市民大学・市民大学大学院	H29年度決算額	2,650千円
事業の目的	市民の生涯学習の機運を醸成し、生涯学習を推進するため、学習要求に応えた各種講座を開催します。			
事業内容	講座の実施 ・芸術文化、歴史、自然科学、健康、音楽、人権などに関する講座の開催			
達成状況	【市民大学】受講者は、各学年定員を超過している状況で、市民の学習要求の高さが現れています。この学習要求に応えるため、学生による自主運営を行いながら、幅広い分野に渡る講座内容の充実を図っています。			
	平成29年度 講座内容			
	JICA国際協力出前講座「助産師としてボリビア派遣での体験から」(講師：下野理紗)			
	「トークと語りべの世界」(講師：美咲蘭)			
	「古田人形芝居公演」(公演：古田人形保存会)			
	信大出前講座「地質遺産・文化財やジオパークから学ぶ防災」(講師：大塚勉)			
	「野草講座」(講師：柄山祐希)			
	「伊那市の教育」～歴史と文化を大切にしたい人を育むまちづくり～(講師：北原秀樹 副学長)			
	「市政よもやま話」(講師：白鳥孝 学長)			
	「ウェストンの駒ヶ岳」～明治24年の伊那路の旅～(講師：堀井正子)			
	「心も体もまるごと幸せ元気」(講師：山岸洋子)			
	「おじいちゃんの季節」「いのちありて」上映会と後藤監督のトーク			
	「健康導引養生功」(講師：佐藤省三) ほか15講座 計26講座			
	【参考】第十九期後期 学生数141人 12講座 第二十期前期 学生数143人 14講座			
【市民大学大学院】市民大学の修了者を対象に、さらに学習を深めていただく専門的な学びの場として2つのコースを用意し、第三期後半及び第四期前半を開講しました。伊那市の発展のため行動できる地域のリーダーとなる人材の育成を目指します。				
事業の課題及び方向性	平成29年度 研究内容			
	歴史コース : 高遠の歴史と風土、人の成長と保科正之公 ほか			
	自然科学コース : 里山の植物、食用になる植物、伊那谷の絶滅危惧種 ほか			
	【参考】第三期後期 歴史コース 7人4講座 自然科学コース 5人5講座 第四期前期 歴史コース 6人6講座 自然科学コース 5人5講座			
事業の課題及び方向性	【課題】変化する社会に適応できる力をつけるために、受講者の学習要求を的確にとらえた魅力ある講座運営を行う必要があります。修了者の地域貢献の推進が必要です。 【方向性】受講生による自主運営を基本に、魅力ある講座等を企画運営します。また、学習の成果が地域での活動に活かせるように促します。			
自己評価	b			

事務事業	No.18	桜大学	H29年度決算額	421千円
事業の目的	生活にうらおいと生きがいを与え人生を心豊かに生きるため、生涯学習を推進します。			
事業内容	講座の開催（4月29日～2月18日 会場：やますそ）			
達成状況	公民館活動のひとつとして実施され、39回目を迎えた伝統ある住民の学習の場です。			
	平成29年度講座内容（講師）			
	「松姫様の生涯～保科正之公を守った姫君、高遠から高遠まで～」(八王子市郷土史家 鈴木 泰 氏)			
	「激動の国際情勢にどう対処するか」(旧高遠藩主内藤家17代当主 元朝日新聞・アメリカ総局長 内藤 頼 氏)			
	「世界の国旗、地球を結ぶわたしたちの旗～オリンピックに携わって～」(ユーラシア21研究所理事長 吹浦 忠正 氏)			
	「苗木の廃仏毀釈と高遠石工～苗木藩の藩政改革の中で～」(中津川市苗木遠山史料館 資料調査員 千早 保之 氏)			
	【参考】受講者数710人 (H25:670人 H26:610人 H27:640人 H28:550人)			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。 <b>【方向性】</b> 長年開催され、高遠町地域における生涯学習の場として定着しており、合併後、市民大学との共催講座なども実施し、伊那、長谷地域からの参加者も増えています。地域に縁がある方、地域について研究されている方などを講師に招き、地域の特性を生かした運営を行います。また、経費についても工夫しながら事業を進めます。			
自己評価	a			

事務事業	No.19-1	長谷生涯学習講演会	H29年度決算額	428千円
事業の目的	地域住民の生活及び文化、教養の向上を図るため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講演会の開催（11月11日 会場：長谷公民館 講堂） ・公民館・小中学校・小中学校PTAが共催し、著名な講師を招き講演会を開催しています。			
達成状況	平成29年度			
	講演 息子3人、局アナパパの子育て奮闘記（アナウンサー 笠井信輔 氏） 現役アナウンサーでありながら、学校の保護者会には自ら積極的に参加するなど、夫婦共に協力しながら子育てをすることの重要性や苦労話などエピソードを交えながら父親としての子育てのヒントとなる講演であった。また東日本大震災の取材での自らの体験談を講演し、災害の悲惨さを聴講者に訴え、公演終了後、執筆本を寄付目的で販売した。			
	参加者アンケートからは「良かった」が96%以上など大変好評であった。 【参考】受講者数128人 (H27:104人 H28:80人)			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。 <b>【方向性】</b> 過疎化や高齢化が進む地域においても住民が質の高い文化に触れる貴重な機会として、今後も工夫しながら進めます。			
自己評価	b			



講師のアナウンサー笠井信輔さん



長谷生涯学習講演会の様子

事務事業	No.19-2	親孝行の讃歌事業	H29年度決算額	3,231千円
事業の目的	民話「孝行猿」の教育への活用と長谷地域の振興を図ります。			
事業内容	「今、伝えたい親へのおもい」を一般の部・小中学生の部に分け作文を公募			
達成状況	<p>平成26年度より隔年実施（平成26・28年度は休み）  募集期間 平成29年5月24日～7月31日  応募者数 一般の部 374点・小中学生の部 1,100点（合計1,474点 過去最高）  結果発表・表彰式・作品集発行 11月12日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去に表彰式を年明け1月・2月に開催していたものを、季節の良い11月に開催するようになり2回目。表彰式が早まり審査の関係もあり、募集期間は小中学校の夏休み前でしたが、特に小中学生の部の応募が初めて千点を越えて過去最高の応募がありました。  【参考】応募者数1,474点（H24:416点 H25:919点 H27:991点）</li> <li>入選者は県外の方も多し中、表彰式に入選者21名の出席を得て盛大に行われました。アトラクションとして地元長谷小学校3年生による「孝行猿」の演劇を披露しました。旅費は郡外者に対し3万円を上限に支給しました。よって前回から上位入賞点数を絞っています。（孝行賞3点→1点、勸助賞5点→3点、佳作は5点程度減）</li> <li>地域振興の取り組みとして、高遠高校と協力しての「高遠ぶらり」の長谷版の制作・検討委託を行いました。</li> </ul>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】公募体制の全国的な展開と孝行猿（親孝行）を活かした地域振興策の実施が求められています。</p> <p>【方向性】友好都市や関係ある市町村の協力、インターネットを活用した全国的な展開と、伊那市観光協会や伊那市観光㈱と協力し、観光を絡めた地域振興策を図ります。</p>			
自己評価	a			



親孝行の讃歌表彰を受ける入選者



親孝行の讃歌表彰式での記念撮影

(2) 公民館活動の推進

事務事業	No.20	集会施設整備事業補助	H29年度決算額	4,911千円	
事業の目的	地域住民の福祉の向上、コミュニティの推進、災害時の拠点の確保などに資するため、集会施設等を整備する費用の一部を補助します。				
事業内容	伊那市集会施設整備事業補助金交付要綱に基づき、集会施設の新築・増築・改築及び改修工事の補助金を交付します。 ・対象施設及び交付基準				
	施設区分	事業区分	補助要件等		
	公民館の分館 又は区が管理 運営する集会 施設	新築	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高750万円まで 最低事業費 100万円以上		
		増築・改築・改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上		
		水洗化・耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高150万円まで 最低事業費 50万円以上		
		外構整備・舗装	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上		
	町内会・常会・組等が管理運営する集会施設	新築・増築	対象外		
		改築・改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上		
		水洗化・耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高60万円まで 最低事業費 25万円以上		
		外構整備・舗装	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上		
達成状況	○集会施設の公共性を考慮し、対象工事の経費の一部を補助しました。 【参考】補助施設数 8件 4,911千円 (H28: 9件 2,901千円) ○平成23年度から、合併前の3市町村の交付要綱を統一した、新要綱を運用しています。				
事業の課題及び方向性	【課題】地元要望がある施設については計画的に改築等を進める必要があります。 また、他の同様な補助事業主管課との調整が必要です。 【方向性】集会施設等は、地域住民の福祉の向上、コミュニティ活動の推進、災害時の拠点の確保などに資する事業であるため、予算の範囲内で計画的に費用の一部を補助します。				
自己評価	b				

事務事業	No.2 1	公民館建設（施設管理）	H29 年度決算額	42,494 千円
事業の目的	地域の生涯学習の拠点整備や地域コミュニティの形成など地域づくりを推進するため、老朽化した公民館を計画的に建て替えます。 また、公民館の施設維持に必要な改修等を行いません。			
事業内容	○施設改築 公民館の建て替え整備について順次計画を策定 ○施設改修等			
達成状況	○本年度は、西春近公民館の建設計画について内部検討を行いました。			
事業の課題及び方向性	【課題】老朽化した西春近公民館を整備する必要があります。 【方向性】有利な財源を確保しながら計画的に整備を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.2 2	公民館共同事業	H29 年度決算額	7,094 千円
事業の目的	青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市的に図るため、未就園・未就学の子ども、小学生とその家庭などを対象に、9 公民館が共同して子ども向けの事業を実施します。 地域の公民館分館活動を支援するとともに、地域理解を深めるため「ふるさと講座」を開催し、公民館活動への理解を深めてもらうため広報誌を発行します。			
事業内容	○分館活動委託事業の実施 ○「公民館報いな」の発行			
達成状況	各事業への参加者は多く、集団の中で異年齢の子どもたちは「体験」を通して多くを学び、それぞれの事業目的が達成されています。 ・「ふるさと講座」（高遠町、長谷 180 人） ・84 分館に活動委託 ・館報毎月発行第 463 号～第 474 号			
事業の課題及び方向性	【課題】児童の居場所づくりや、「体験」「子ども主体の活動」の場としてニーズが高い事業であるため、地域や関係団体と連携し、充実を図る必要があります。 また、連携の目的や効果を検討し、事業の企画や運営を行う必要があります。 【方向性】縦社会の再構築を願って「子どもが集う公民館」を重点テーマに、参加規模が大きな事業について公民館全体で共同事業として取り組みます。また、支援ボランティアの確保を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.23	公民館事業	H29年度決算額	108,918千円
事業の目的	生涯学習を通じた生きがいづくりや地域づくりを推進するため、市内9公民館において、教室・講座・イベントなどを開催します。			
事業内容	高齢者、女性、成人、青少年、家庭など様々な分野において教室・講座・イベントなどを開催			
達成状況	各地域の特色や住民要望に応えた公民館活動が行なわれ、生涯学習の推進と地域づくりの役割を果たしています。			
	公民館	平成29年度活動内容(特徴的なもの)		
	伊那	夏休みおいで塾、らっこルーム、女性教室、伊那おやじの会、高齢者教室、市民ガーデニング講座、元旦ジョギング、野草講座、探鳥会など		
	富県	夏休み富県おいで塾、こども書道教室、トムキャロット、のどか学級、高鳥谷山区民ハイキング、いきもの探検隊、俳句教室、うたの教室など		
	美篁	おいで塾宿泊学習、親子青空教室、「芽と実」読み聞かせ、場広山ハイキング、史跡探訪の会、童謡・唱歌の集い、野草教室、トリムバレー大会など		
	手良	わいわいくらぶ、俳句教室、手良おいで塾、野草講座、四ツ葉の会、手良の歴史講座、手良地区ハイキングなど		
	東春近	こども体験教室、楽生学級、女性教室、くれよんクラブ、チャレンジおっこ塾、童謡唱歌を楽しむ会、森の音楽祭、東春近ハイキングなど		
	西箕輪	わんぱく親子塾、通学合宿、脳イキイキ出前講座、夏・秋・冬の自然観察会、高原マラソン大会、星空観察会、紅葉教室、料理教室など		
	西春近	西春近てらこや塾、出前講座、父居屋の会、かるがも学級、女論の会、万年青の会、女性トリムバレーボール大会、文化祭、趣味の会発表会など		
	高遠	進徳館夏の学校、高遠中学校通学合宿、美術館・歴史博物館を訪ねて、高遠の美しさを訪ね求める講座、さくらんぼきつず、桜大学講座、そば打ち講座、ハーモニカ教室、南アルプスジオパーク講座、ふれあいスポーツクラブ、各種球技大会など		
	長谷	はせっこサマースクール、入野谷講座、戸台の化石学習会、ソフトテニス教室、くじらくらぶ、女性教室、スラックライン、うたのラウンジなど		
共同	キッズ王国			
	【参考】講座・教室・イベントなど公民館利用者数 170,542人 (H27:162,646人、H28:170,318人)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】生活に結びついた公民館活動を通して、生涯学習と地域づくりを進める必要があります。</p> <p>【方向性】(1)まなぶ…いつでも、どこでも、だれもが学ぶことができ、学び合い、育ち合い、高めあう機会と場を提供します。</p> <p>(2)つなぐ…出会い、ふれあい、交わりを大切に、仲間づくりと地域の交流を進めます。</p> <p>(3)つくる…地域課題に取り組み、生き生きとした地域づくりと地域文化の伝承と創造を目指します。</p>			
自己評価	b			

### (3) 図書館の充実

事務事業	No.24	蔵書管理	H29年度決算額	13,526千円																																																			
事業の目的	市民が自主的な学習を行う「知の拠点」となるため、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																																						
事業内容	○図書館資料の管理（選書、発注、装備・登録・修理、除籍） ○書架配置換え・案内表示の更新 ○図書館システムの維持・管理																																																						
達成状況	<p>優良図書の整備に努めるとともに、市民の知の拠点として定着しています。</p> <p>○平成29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・システムデータの更新、保守、管理を行い、適正な運用に努めました。（伊那・高遠）</li> <li>・諸資料の購入・整備、利用者への貸出・閲覧を行いました。（伊那・高遠）</li> <li>・資料を有効活用するため、テーマ展示を定期的に行いました。（伊那・高遠）</li> </ul> <p><b>【参考】</b> 蔵書数は図書のみ、（ ）内H28</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>蔵書冊数</th> <th>貸出冊数</th> <th>登録者数（個人）</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那図書館</td> <td>218,717 (217,518)</td> <td>348,831 (353,957)</td> <td>54,441 (53,428)</td> <td>73,214 (74,805)</td> </tr> <tr> <td>高遠町図書館</td> <td>95,061 (94,937)</td> <td>45,208 (45,907)</td> <td>6,630 (6,529)</td> <td>9,471 (9,769)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・他市町村比較表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人口一人当たり 蔵書冊数（冊）</th> <th>人口一人当たり 貸出冊数（冊）</th> <th>登録率％ （登録者数／人口）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那市</td> <td>5.9</td> <td>7.3</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>駒ヶ根市</td> <td>5.4</td> <td>6.1</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>辰野町</td> <td>4.2</td> <td>4.1</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>箕輪町</td> <td>2.6</td> <td>3.2</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>飯島町</td> <td>7.6</td> <td>4.8</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>南箕輪村</td> <td>5.9</td> <td>7.8</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>中川村</td> <td>13.6</td> <td>6.4</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>宮田村</td> <td>7.0</td> <td>5.0</td> <td>81</td> </tr> </tbody> </table>				名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数	伊那図書館	218,717 (217,518)	348,831 (353,957)	54,441 (53,428)	73,214 (74,805)	高遠町図書館	95,061 (94,937)	45,208 (45,907)	6,630 (6,529)	9,471 (9,769)		人口一人当たり 蔵書冊数（冊）	人口一人当たり 貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）	伊那市	5.9	7.3	94	駒ヶ根市	5.4	6.1	64	辰野町	4.2	4.1	83	箕輪町	2.6	3.2	57	飯島町	7.6	4.8	97	南箕輪村	5.9	7.8	56	中川村	13.6	6.4	110	宮田村	7.0	5.0	81
名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数																																																			
伊那図書館	218,717 (217,518)	348,831 (353,957)	54,441 (53,428)	73,214 (74,805)																																																			
高遠町図書館	95,061 (94,937)	45,208 (45,907)	6,630 (6,529)	9,471 (9,769)																																																			
	人口一人当たり 蔵書冊数（冊）	人口一人当たり 貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）																																																				
伊那市	5.9	7.3	94																																																				
駒ヶ根市	5.4	6.1	64																																																				
辰野町	4.2	4.1	83																																																				
箕輪町	2.6	3.2	57																																																				
飯島町	7.6	4.8	97																																																				
南箕輪村	5.9	7.8	56																																																				
中川村	13.6	6.4	110																																																				
宮田村	7.0	5.0	81																																																				
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 市民の「知の拠点」として、多様化する市民の知的ニーズに応えるとともに図書や図書館を取り巻く社会状況の変化に対応していく必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 調査・研究・資料の収集整理をし、情報提供を積極的に行ないます。また、イベントなどを通して、親しみやすい図書館になるよう努めます。</p>																																																						
自己評価	b																																																						



#### (4)生涯学習センターの充実

事務事業	No.27	生涯学習センター	H29年度決算額	88,873千円																								
事業の目的	市民に生涯学習の機会を提供するとともに、中心市街地の活性化と活力あるまちづくりを推進するため、生涯学習センターを適正かつ円滑に管理運営します。																											
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設管理 生涯学習センター部分は直営で管理し、ビル共用部分は共益費を負担して「いなっせ管理組合」が管理</li> <li>○貸し館業務</li> <li>○自主事業の運営</li> </ul>																											
達成状況	<p>利用者数が減少傾向にあるものの、自主事業などに多数の参加があり、貸し館としての役割も高く、中心市街地の誘客に繋がっています。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">平成29年度 自主事業 (内容)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">芸術文化体験教室 (季節の料理、クラシックバレエ、iPad活用ほか23講座)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">第14回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">第13回伊那谷伝統文化公演 (早稲田人形芝居、知立市山車文楽狂言芝居)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">音楽公演事業 (「矢島愛子ピアノリサイタル」ほか6事業)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか8事業)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">青少年音楽事業 (「第12回 小さな芽コンサート」ほか7事業)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">大野利可 篠笛講座 飯島瀬里香 チェロ教室</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">軒下コンサート (いな少年少女合唱団 ほか1団体)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">自主企画教室 (伊澤修二没後100年記念講演ほか18講座)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">自主企画イベント (春休み子ども人形劇場、いなっせ演劇フェス)</td> </tr> </tbody> </table> <p>自主講座参加者人数 577人 (H27:311、H28:379人)  <b>【貸し館】</b> 利用室数 9,227コマ (H27:9,814、H28:9,244コマ)          利用者数 143,837人 (H27:155,119、H28:148,196人)          各室平均稼働率 55.5% (H27:57.9、H28:55.8%)</p>				平成29年度 自主事業 (内容)		芸術文化体験教室 (季節の料理、クラシックバレエ、iPad活用ほか23講座)		第14回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)		第13回伊那谷伝統文化公演 (早稲田人形芝居、知立市山車文楽狂言芝居)		音楽公演事業 (「矢島愛子ピアノリサイタル」ほか6事業)		四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか8事業)		青少年音楽事業 (「第12回 小さな芽コンサート」ほか7事業)		大野利可 篠笛講座 飯島瀬里香 チェロ教室		軒下コンサート (いな少年少女合唱団 ほか1団体)		語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)		自主企画教室 (伊澤修二没後100年記念講演ほか18講座)		自主企画イベント (春休み子ども人形劇場、いなっせ演劇フェス)	
平成29年度 自主事業 (内容)																												
芸術文化体験教室 (季節の料理、クラシックバレエ、iPad活用ほか23講座)																												
第14回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)																												
第13回伊那谷伝統文化公演 (早稲田人形芝居、知立市山車文楽狂言芝居)																												
音楽公演事業 (「矢島愛子ピアノリサイタル」ほか6事業)																												
四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか8事業)																												
青少年音楽事業 (「第12回 小さな芽コンサート」ほか7事業)																												
大野利可 篠笛講座 飯島瀬里香 チェロ教室																												
軒下コンサート (いな少年少女合唱団 ほか1団体)																												
語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)																												
自主企画教室 (伊澤修二没後100年記念講演ほか18講座)																												
自主企画イベント (春休み子ども人形劇場、いなっせ演劇フェス)																												
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 学習及び文化活動を通し市民相互の交流を促進するとともに、中心市街地の活性化に効果のある施設の運用について、更に検討する必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 利用者ニーズにあった自主事業を推進します。また、開館日数、開館時間など利用者の利便を図るとともに、利用者の意見を反映させることができる管理運営方法について検討を進めます。</p>																											
自己評価	b																											



絵本作家ワークショップ  
(伊那図書館)



伊澤修二没後100年記念講演  
(生涯学習センター)

(5) 人権同和教育の推進

事務事業	No.2 8	社会人権同和教育	H29 年度決算額	2,450 千円
事業の目的	人権問題に対する理解を促進し、全ての人の基本的人権を尊重するため、人権問題について学習する機会を提供します。			
事業内容	<p>人権問題についての講演会、巡回講座、学習講座を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同和問題だけでなく、いじめなどの問題も含め、人権問題について学習する機会を提供します。</li> <li>・人権同和教育講座・学級などの開催</li> <li>・人権同和教育指導案集の改訂と活用</li> </ul>			
達成状況	<p>公民館等と連携して開催している講座・学級が定着し、幅広い世代で人権問題に対する理解が図られています。</p> <p>【参考】講演会 3回・1,480 人 (H27: 3回・1,305 人、H28: 3回・995 人) 公民館人権講座 11回・411 人 (H27: 11回・343 人、H28: 12回・366 人) 人権同和教育学級 現在休会中 (平成 25 年度から)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】同和对策関係特別措置法は失効しましたが、基本的人権を尊重し、同和問題のみならず、「いじめ」など全ての差別を防止する必要があります。</p> <p>【方向性】市民の重要課題として、人権教育の場や情報の提供など、啓発活動を進めます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.2 9	学校人権同和教育	H29 年度決算額	635 千円
事業の目的	人権教育はすべての教育の基本という理念に立ち、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などの特徴に応じて、教育活動全体を通じて計画的に推進し、人権感覚を培い、人権課題を自ら解決する意欲と実践力を持つ子どもたちを育てます。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 (委員長・副委員長・委員各学校 1 名)</li> <li>○副読本「あけぼの」配布 (小学 1・3・5 年生、中学 1 年生) (学校据置)</li> <li>○人権教育講演会等の実施</li> </ul>			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての小中学校において、それぞれの地域性、課題等の実態に沿った人権同和教育計画を立て、全教育活動を通じて実践しました。</li> <li>○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 4 回 学社連携による推進会議 (2 回)、職員研修会、人権同和教育研究授業参観・授業研究会開催</li> <li>○平成 28 年度に作成した「伊那市人権同和教育学習指導案集」の増頁を行い、小中学校における人権同和教育に活用しました。</li> <li>○人権同和教育副読本「あけぼの」を小学校 1・3・5 年生、中学校 1 年生に配布し活用しました。</li> <li>○人権教育プログラム CAP ワークショップほか人権教育研修会を小学校 5 校、中学校 1 校で実施しました。</li> </ul>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】経済状況の悪化、いじめ、児童虐待等子どもたちを取り巻く環境は深刻です。また、子どもたちのコミュニケーション力、自尊感情の低下等が懸念されています。</p> <p>【方向性】教職員が豊かな人権感覚を持ち、人権尊重の理念に基づいた人権教育を実践する力量を高めるよう教職員研修の充実に努めるとともに、子どもたちの実体験の機会を増やす等の取組を通じ、豊かな人間性の育成に努めます。</p>			
自己評価	b			

## 2-2：青少年健全育成と家庭教育の充実

青少年の健全育成に向けて、地域で青少年を育てる環境づくりを進め、あわせて学校、行政、地域一体となった家庭教育の充実策に取り組みます。

### (1) 青少年の健全育成

事務事業	No.30	学童クラブ	H29年度決算額	103,218千円
事業の目的	下校後、保護者が就労などにより不在のため、適切な保護が受けられない児童の保護及び健全育成を図ります。			
事業内容	学童クラブの設置 伊那小、伊那東小、伊那北小、伊那西小、富巣小、新山小、美篤小、手良小、東春近小、西箕輪小、西春近北小、西春近南小、高遠小、高遠北小、長谷小の15校に開所			
達成状況	<p>入所者が多い伊那小・伊那東小は3クラブ、伊那北小・美篤小・東春近小・西箕輪小学童クラブは2クラブ体制で対応しています。</p> <p>新西箕輪小学童クラブ実施設計施工監理委託 2,949千円          新西箕輪小学童クラブ建設工事 33,642千円          旧西箕輪小学童クラブ解体工事 3,381千円</p> <p>【参考】学童クラブ23箇所（H27:19箇所、H28:21箇所）          入所者数621人（H26:522人、H27:528人、H28:582人）          クラブ設置小学校数/小学校数100%（H27:100%、H28:100%）          入所者数/児童数17.0%（H27:13.8%、H28:15.3%）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】保護者の就労支援や児童の健全育成のためニーズが高まっています。</p> <p>【方向性】大規模クラブの解消（分割）や老朽・狭隘施設の整備、開所日数の拡充、指導員の確保など学校や地域等と連携を図りながら課題を解決し、事業の充実を進めます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.31	少年補導委員会・少年補導センター	H29年度決算額	998千円
事業の目的	青少年の健全育成と非行防止を図るため、関係団体と連携を図り、街頭補導などを実施します。			
事業内容	<p>少年補導センター及び補導委員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少年補導センターの運営</li> <li>補導委員は、55人を11班に編成し、毎週土曜日と第3日曜日に街頭補導を実施するとともに、学校の長期休暇中は特別街頭補導を実施（補導日数81日）</li> <li>補導の手引きの作成</li> </ul>			
達成状況	<p>街頭補導による指導件数は減少傾向にあり、補導活動が非行防止の一助となっています。この指導件数の減少を踏まえ、指導方針について検討を行いました。</p> <p>【参考】補導活動延べ人員271人（H27:361人、H28:354人）          声かけ件数 315件（H27:233件、H28:444件）          指導件数 0件（H27:12件、H28:0件）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】特にソーシャルメディアに関連し、子どもを非行へ誘惑する要因が増えるとともに、子どもの規範意識が薄くなっています。</p> <p>【方向性】少年を取り巻く環境は多様化しており、少年の健全育成を図るため、引き続き補導委員会を中心に地域が子どもを見守る体制づくりを進めます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.3 2	青少年育成対策	H29 年度決算額	2,697 千円
事業の目的	青少年の健全育成事業を推進するため、各地区 34 子ども会・育成会が行う各種事業を支援します。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地区における青少年の健全育成及び家庭教育推進活動</li> <li>○子どもの安全、有害環境の排除</li> <li>○よりよい教育環境推進協議会などへ参画</li> <li>○わんぱく広場の開催</li> <li>○情報紙「えがお」の発行</li> </ul>			
達成状況	<p>子どもにかかわる組織として地域に定着しており、各地域の実情に応じた活動を実施しています。</p> <p>○平成 29 年度各地区育成会実施事業 有害環境チェック活動（7, 2月）、「信州あいさつ運動」への取組、魚つかみ大会、飯盒炊飯・キャンプ、どんど焼き、子ども神輿、天神様、まんど作り、しめ縄作り、子ども球技大会、夏祭り・花火大会、その他に子ども映画会、クリスマス会、資源回収、朝の清掃等</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 地域全体で子どもを育てるという環境整備が求められています。</p> <p><b>【方向性】</b> 子ども会・育成会は、地区の青少年健全育成の中心として大きな役割を担っています。しかし、地区によっては、過疎化、高齢化による組織的な問題も生じているため、委託料について見直しを進めます。</p>			
自己評価	b			



伊那市よりよい教育環境推進連絡会

事務事業	No.33	成人式	H29年度決算額	1,081千円
事業の目的	新成人を祝い、成人としての意識の高揚を図るため、式典を執り行います。			
事業内容	成人式を公民館単位の10地区で実施			
達成状況	平成21年度から伊那地域においても公民館単位での実施に変更しました。 【参考】( )内H28			
	地区	実施日	対象者	出席者
	竜西	8月15日	137人 (146人)	101人 (107人)
	竜東	8月15日	217人 (197人)	144人 (134人)
	富県	8月15日	26人 (24人)	18人 (19人)
	美篁	8月15日	70人 (63人)	54人 (56人)
	手良	8月14日	31人 (21人)	25人 (13人)
	東春近	8月15日	80人 (58人)	63人 (43人)
	西箕輪	8月15日	82人 (69人)	49人 (43人)
	西春近	8月15日	68人 (62人)	51人 (49人)
	高遠町地区	1月2日	65人 (47人)	53人 (32人)
	長谷地区	1月1日	15人 (21人)	12人 (20人)
※伊那地区(竜西～西春近)		計	71.0%	(H27: 71.1%、H28: 72.5%)
		合計	72.1%	(H27: 72.1%、H28: 72.9%)
事業の課題及び方向性	<p>【課題】開催方法、時期等を含めて、新成人にとってより良い成人式とは何かを検討し、実施する。</p> <p>【方向性】「伊那市成人式のあり方検討委員会」の結果からこれまでどおり分散形式とし、伊那市成人式として一体感を持てるよう、記念品、パンフレット等できることから統一していく。</p>			
自己評価	b			



伊那市成人式(竜西地区)



平成30年度記念品(印鑑ケース)

## 2-3：文化の振興

文化芸術施設の整備及び充実を図り、文化芸術の鑑賞機会の充実や意識の高揚などを通じて、市民の文化芸術活動の振興を図るとともに、新しい文化の創造を推進します。

### (1)文化事業などの充実

事務事業	No.34	伊澤修二記念音楽祭	H29年度決算額	6,840千円
事業の目的	伊澤修二先生を顕彰するとともに、東京藝術大学との交流を通し、地域文化の振興を図ります。			
事業内容	<p>○伊澤修二記念音楽祭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高遠町出身で東京藝術大学の前身である東京音楽学校の初代校長を務めた伊澤修二先生を顕彰する音楽祭。昭和62年の東京藝術大学創立百周年を機に、旧高遠町で第1回が開催され、秋恒例の音楽祭となっています。</li> </ul> <p>○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会を開催します。</li> </ul> <p>○小中学校アウトリーチ、邦楽指導、若手演奏家支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の楽しさに触れるアウトリーチ、高遠囃子の指導、地元出身の若手演奏家の出演機会の創出など、様々な事業を実施しました。</li> </ul>			
達成状況	東京藝術大学との音楽交流や日頃の練習の成果を発表する機会の創出が図られました。藝大関係者を含む音楽祭関係者同士がより交流を深めました。小中学校アウトリーチ（参加者354人）、邦楽指導（参加者65人）、若手演奏家支援（登録者6人、出演イベント6回、観覧者520人）を実施し、多くの市民が音楽祭への関心を深めました。 【参考】音楽祭入場者数2,000人（H27:2,200人、H28:2,150人）			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】伊澤修二先生を縁とする東京藝術大学とのつながりを大切に、地域文化の振興に活かす必要があります。</p> <p>【方向性】東京藝術大学の優れた音楽に触れ、また市内中学生が指導を受けるよい機会になっています。伊那市固有の音楽祭として発展させるため、積極的なPRを図っていきます。</p>			
自己評価	a			



横笛の演奏指導を受ける（邦楽指導）



出演する若手演奏家（若手演奏家支援事業）

事務事業	No.35	い〜な音楽祭	H29年度決算額	269千円
事業の目的	コーラスグループを中心に合唱の発表機会を提供し、音楽を通じた相互交流を深めます。			
事業内容	○い〜な音楽祭 2017 開催 ・各音楽団体の代表者により構成された実行委員会が運営し、一般や学校関係団体から参加を募り、一般市民の入場も呼びかけて県伊那文化会館で開催される市内合唱グループの発表会			
達成状況	実行委員自らの企画運営により、互いの参加団体が協力し合いながら、費用をかけずに充実した音楽祭の開催を図ることができました。今回は、県伊那文化会館の改修時期と重なり駒ヶ根市文化会館で開催し、駒ヶ根市の小中学校からの出演もあった。 【参考】参加団体数 21 団体 (H27:24 団体、H28:25 団体)			
事業の課題及び方向性	【課題】身近な発表の場として、参加しやすい運営に努める必要があります。参加団体の増加に対応し、運営方法の検討を進める必要があります。 【方向性】今後も息の長い音楽祭となるよう、実行委員会の組織の充実と事業内容の充実を図ります。25 年度から参加団体が順番で事務局を務めています。			
自己評価	b			

事務事業	No.36	市民音楽祭	H29年度決算額	552千円
事業の目的	市民に良質な音楽と発表する場を提供するため、市民が企画し参加する音楽祭を開催します。			
事業内容	①ふるさと芸能祭 ②クラシック音楽の祭典(旧手づくりの演奏会)の2事業を隔年で実施します。 平成 26 年度事業 手づくりの演奏会「カルミナ・ブラーナ」 平成 27 年度事業 伊那節大会 2015/ふるさと芸能祭 手づくりの演奏会「第九演奏会」(開催準備補助) 平成 28 年度事業 手づくりの演奏会「第九演奏会」 平成 29 年度事業 伊那節大会 2017/ふるさと芸能祭 クラシック音楽の祭典(開催準備補助)			
達成状況	内容などによって参加者の増減がありますが、良質な音楽を提供する音楽祭として定着してきています。市民が企画、出演する手づくりの音楽祭です。 【参考】伊那節大会 2017/ふるさと芸能祭 入場者 200 人			
事業の課題及び方向性	【課題】市民音楽祭の目的である「手作り」「良質な音楽の提供」を基本に、特色ある運営をする必要があります。 【方向性】市民が企画し、参加する音楽祭、良質な音楽の提供を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.3 7	千両千両井月さんまつり 信州伊那井月俳句大会	H29 年度決算額	1,245 千円
事業の目的	伊那市を終焉の地とした漂泊の俳人井上井月を偲び、末永く顕彰するとともに、日本の伝統文化である俳句に親しみ、楽しんでもらうため、俳句大会を開催します。 また、俳句愛好者以外にも井月を広め、地域活性化に繋げることを目的に、大会にあわせ、井上井月顕彰会と連携し、千両千両井月さんまつりを開催します。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第26回信州伊那井月俳句大会の開催 実行委員会を中心に俳句大会を企画・開催し、事前に募集した小中学生及び一般からの投句の中から、入賞作品の発表・表彰を行います。</li> <li>・シンポジウム「井月さんと高遠藩の幕末維新」、古田人形芝居、井月関連展示、物販ほか</li> </ul>			
達成状況	井月愛好者、俳句愛好者等により構成するまつり実行委員会と、俳句大会実行委員会が協働し、『まつり』要素を取り入れて実施した。 【参考】俳句大会 投句数6,183句（一般1,656句、小中学生4,527句） （H27:5,440句、H28:5,662句） 一般参加者数200人（H27:200人、H28:200人） その他まつり シンポジウム170人、古田人形芝居 170人ほか			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】俳人井上井月を顕彰するとともに、俳句に親しみ、俳句の普及を図る必要があります。まつりとしての事業内容の見直し、広報等、参加者を増やす方策が必要です。民間団体主体の事業運営には課題があり、今後の運営主体の検討が必要です。</p> <p>【方向性】井上井月、俳句を通じて全国的にアピールできる事業であるため、開催方法や内容を検討しながら更に発展させる必要があります。俳句以外の面からも井月に親しむことのできる「まつり」の民間主導による運営の可能性を検討します。</p>			
自己評価	b			



シンポジウムの様子（井月さんまつり）



子ども向け体験講座（井月俳句大会）

事務事業	No.38	進徳館の日	H29年度決算額	288千円
事業の目的	進徳館教育から先人の遺訓を学び、その精神を現代に活かして歴史と文化のまち伊那市へ一層の発展を図ります。			
事業内容	○式典、基調講演、学習発表など（5月28日 会場：進徳館、高遠閣） ○剣道大会（5月28日 会場：高遠中学校体育館）			
達成状況	<p>実学重視の藩校「進徳館」の学びの心に触れ、藩校教育の伝統や精神を継承し、地域の生涯学習の振興を図る事業として地域に定着しています。また、旧高遠藩主をはじめ、藩関係者との交流の機会ともなっている。</p> <p>○平成29年度 第23回進徳館の日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五聖像に礼拝</li> <li>・式典</li> <li>・基調講話 高遠中学校 竹村 勝校長「高遠の学 ～子どもたちは今～、「仰望」演奏</li> <li>・実践報告 高遠中学校 横田 茂樹教諭「観桜期活動に伴う総合的な学習の取り組み」</li> <li>・学習発表 高遠小学校5年生 舞踊「孤軍高遠城」</li> <li>・記念講演 「内藤家の江戸屋敷について」 講師 今野 慶信 (公益財団法人新宿未来創造財団 新宿歴史博物館主任主事)</li> </ul> <p>【参考】参加人数 250人 (H25: 200人 H26: 150人 H27:150人)</p> <p>○平成29年度 第19回進徳館の日記念剣道大会 【参考】参加チーム数 38チーム (H26:35チーム H27:35チーム H28:39チーム)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】藩校「進徳館」の藩校教育の伝統や精神を継承し、その精神を現代に生かした事業展開を行なう必要があります。</p> <p>【方向性】進徳館教育の精神や優れた点を学び、現代社会に対応する方策を創造するとともに、広くPRすることによりこの事業の活用と面的な拡大を図ります。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.39	伊那能	H29年度決算額	0千円
事業の目的	日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ機会を提供します。			
事業内容	「能」「狂言」公演の開催 ・平成2年に第1回を民間との協働により開催し、伊那市と県伊那文化会館が隔年で支援し、中学生の希望者を無料で招待しています。			
達成状況	<p>演目などにより入場者数の増減はありますが、日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ良い機会となっています。教職員向けの体験講座も開催しました。</p> <p>○第26回伊那能 【参考】入場者数 630人 (H27:580人、H28:610人) 教職員向け体験講座 30人 負担金 0千円 (H27:0千円、H28: 475千円 隔年負担のため)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】日本の伝統芸能である「能」と「狂言」を鑑賞できる貴重な機会であり、継続のためには、分かりやすい内容で底辺の拡大を図る必要があります。</p> <p>【方向性】実施主体である民間との協働を基本に、分かりやすいものになるように鑑賞講座、ワークショップなどを取り入れながら、県伊那文化会館とも連携し継続開催に努めます。</p>			
自己評価	b			

(2)博物館などの整備・活用

事務事業	No.40	創造館	H29年度決算額	44,781千円																
事業の目的	市民の憩いの場及び生涯学習の場として、施設の管理・運営を行うとともに、「縄文から宇宙まで」をテーマに自然科学、宇宙、考古、歴史・民俗、芸術、環境などに関するユニークで独創的な事業を実施し、夢多き未来に向かって人類の進化の礎である「創造」を実践します。																			
事業内容	<input type="radio"/> 自主事業 ・講演会、講座等の開催 <input type="radio"/> 展示関係 ・常設展、企画展2回、特別展2回 <input type="radio"/> 貸館業務 ・学習室、体験教室1、体験教室2、講堂 <input type="radio"/> 資料の保管		マスコットキャラクター 「つくルン」																	
達成状況	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">平成29年度 事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【講演会】</td> <td>北村皆雄監督講演会 参加者 64人</td> </tr> <tr> <td>【講座等】</td> <td>宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ・縄文体験教室 6講座 17回 2校 延参加者 1,002人</td> </tr> <tr> <td>【常設展示】</td> <td>神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)</td> </tr> <tr> <td>【企画展展示】</td> <td>第19回企画展(地味にすごい!?伊那市最近◆発掘情報) 第20回企画展(大昆虫食博) 特別展(老松場古墳群第一次調査速報展) 特別展(伊那谷の生んだ芸術家たち(4)) 延観覧者 14,337人</td> </tr> <tr> <td>【備品購入】</td> <td>LEDプロジェクター</td> </tr> <tr> <td>【貸館】</td> <td>延利用者 15,756人</td> </tr> <tr> <td>【参考】</td> <td>H29 開館日数 305日、利用者数 44,752人 H28 開館日数 302日、利用者数 42,225人</td> </tr> </tbody> </table>				平成29年度 事業内容		【講演会】	北村皆雄監督講演会 参加者 64人	【講座等】	宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ・縄文体験教室 6講座 17回 2校 延参加者 1,002人	【常設展示】	神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)	【企画展展示】	第19回企画展(地味にすごい!?伊那市最近◆発掘情報) 第20回企画展(大昆虫食博) 特別展(老松場古墳群第一次調査速報展) 特別展(伊那谷の生んだ芸術家たち(4)) 延観覧者 14,337人	【備品購入】	LEDプロジェクター	【貸館】	延利用者 15,756人	【参考】	H29 開館日数 305日、利用者数 44,752人 H28 開館日数 302日、利用者数 42,225人
平成29年度 事業内容																				
【講演会】	北村皆雄監督講演会 参加者 64人																			
【講座等】	宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ・縄文体験教室 6講座 17回 2校 延参加者 1,002人																			
【常設展示】	神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)																			
【企画展展示】	第19回企画展(地味にすごい!?伊那市最近◆発掘情報) 第20回企画展(大昆虫食博) 特別展(老松場古墳群第一次調査速報展) 特別展(伊那谷の生んだ芸術家たち(4)) 延観覧者 14,337人																			
【備品購入】	LEDプロジェクター																			
【貸館】	延利用者 15,756人																			
【参考】	H29 開館日数 305日、利用者数 44,752人 H28 開館日数 302日、利用者数 42,225人																			
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 事業の実施に際して、生涯学習センター、市立図書館、公民館等の社会教育施設との棲み分けを図るとともに、連携・協働を推進する必要があります。子どもが興味を持ち、参加したくなるプログラムの作成が必要です。 <b>【方向性】</b> 自然科学、考古、宇宙、歴史、教育等を中心にユニークで魅力ある事業の企画・運営を実践するとともに、学習と交流の拠点施設として、市民等が利用しやすい館の運営に努めます。																			
自己評価	a																			

事務事業	No.4 1	高遠町歴史博物館	H29年度決算額	29,042千円
事業の目的	市民の歴史文化に係る学習と教養の向上を図るため、地域の歴史と文化に関する資料を収集、保管、展示します。また、市の観光にも寄与するため広く情報を発信し、資料の活用を通じた文化交流を図ります。			
事業内容	○歴史博物館の運営及び管理			
	○常設展示			
	展示場所	展示内容		
	桜シアター	高遠城址公園に咲く満開のタカトオコヒガンザクラの映像		
	山車展示室	貴船社・仲町の山車、鉾持神社の幟、祭の衣装など高遠の祭に関係するもの		
	第1展示室 (特別展会場となる場合あり)	高遠で発掘された埋蔵文化財 高遠城のジオラマや絵図などの高遠藩関係資料 高遠藩主内藤家の調度品、家宝の兜、古文書 絵島が囲み屋敷で過ごした間に使用したもの		
	第2展示室	藩校進徳館と「高遠の学」 阪本天山、伊澤修二、中村弥六など、地域の先人たち		
	第3展示室 (特別展会場となる場合あり)	中村不折の書画 城下町のジオラマ、中馬・杣・石工の道具など、人々の暮らし 石仏師守屋貞治 高遠焼		
絵島囲み屋敷	江戸時代大奥で6代将軍家宣の側室月光院に仕えた絵島が、将軍家の墓参の帰路、芝居見物をして帰城が遅れ、公務をおろそかにしたとして罪に問われ、高遠へ遠流となった当時の復原屋敷を展示			
達成状況	○特別展の開催(下記)			
事業の課題及び方向性	【特別展】			
	第54回特別展 伊那・高遠と新宿をむすぶ内藤家 (3月24日～6月18日)			
	第55回特別展 出征兵士と家族の肖像展 (7月29日～8月20日)			
	第56回特別展 開館20年 20年のあゆみに学ぶ (9月22日～12月10日)			
自己評価	第57回特別展 上伊那郡市小中学生社会科新聞展 (10月21日～11月5日)			
	【講座】			
	歴博講座2017春Ⅱ、歴博講座2017夏、歴博講座2017秋、歴博講座2018春 参加239人 中学生講座 参加校6校、参加者40人			
	【施設整備】 絵島囲み屋敷塀・忍び返し・雨戸等工事			
自己評価	【その他】 地域文化デジタル化事業			
	【参考】			
	・特別展開催数4回 (H28:3回、H27:3回)			
	・年間入館者数17,561人 (H28:14,951人、H27:16,816人)			
事業の課題及び方向性	【課題】市民の歴史文化の学習と教養の向上のために、所蔵資料の活用、情報発信、他の自治体との文化交流を図る必要があります。			
	【方向性】館の取り組みが市民から見え、皆さんの伊那の地を愛する思いに応える学習センターとしての働きを高めるため、常設展示に加え、魅力ある特別展や講座を開催します。そのためにも、アンケート等を通して得られる地域の皆さんの意見を尊重し、職員の考えを取り入れながら事業の改善を図ります。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 2	信州高速美術館	H29 年度決算額	311,422 千円
事業の目的	地域の方々が芸術文化に触れ、親しんでもらう機会を提供するため、美術館を運営します。			
事業内容	<p>○常設展 原田政雄画伯から寄贈された 668 点の作品を中心に、地元出身の中村不折、池上秀敏、江崎孝坪の作品や、平山郁夫、中川紀元などの作家の作品を展示</p> <p>○ギャラリー展 地元で活躍している作家やグループ、高校生、保育園児などの作品を展示</p> <p>○企画展</p> <p>○アートスクール 地元芸術家の指導と協力を得て、陶芸、静物画、書道などの講座を通年開催</p> <p>○ミュージアムコンサート 弦楽器やピアノなど国内外で活躍中の演奏家や地域で活躍している演奏家によるコンサート</p> <p>○美術大学との連携事業 市内の古民家を活用し、東京藝大の講師・学生、地域住民とともに伊那市の魅力について考え発信する、芸術文化の拠点づくり</p>			
達成状況	伊那市唯一の美術館として、芸術鑑賞にとどまることなく、芸術講座などを積極的に企画し、市民の芸術文化の向上に寄与しています。			
	○平成 29 年度企画展			
	テ	マ	内 容	
	片岡鶴太郎展 ー信濃の四季ー (4月2日～5月21日)		日本画、書、陶芸、染めなど、伊那市芸術文化大使の片岡鶴太郎氏の豊かな感性で制作された作品 86 点を展示しました。	
	四季展回顧展 (5月27日～8月20日)		これまで6回開催されてきた四季展の所蔵作品を展示しました。	
	若手アーティスト展 「谷に吹く風」 (8月26日～9月30日)		上伊那・下伊那の若手作家 12 人の自由な発想と表現により生み出された、様々なジャンルのアートとパフォーマンスを展開しました。	
	第 40 回伊那市民美術展 (10月5日～10月15日)		伊那市民美術会 40 周年の記念展を行いました。	
角居康宏鑄金展 (10月21日～12月10日)		火に対する信仰や祈り、人間の尊厳を取り戻し、生きとし生けるものを大切にする思いを、火と溶けた金属によって表現しました。		
	○ミュージアムコンサート ヴァイオリンとチェロのアンサンブル、川島成道ヴァイオリンリサイタル			
	○美術大学との連携事業 高遠町塩俣の古民家を活用し、東京藝大の講師による木工子どもワークショップを開催しました。地元住民と学生が作った郷土料理を制作した木の器、箸でいただきました。 【参考】入館者数 15,860 人 (H27: 13,273 人、H28: 14,294 人) コンサート入場者 169 人 (H27: 268 人、H28: 319 人)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】入館者数が増となりましたが、さらに文化芸術活動の振興のため、裾野を広める事業の検討や参加しやすい事業の検討が必要です。</p> <p>【方向性】親しみやすい企画展や所蔵作品を活かした展示企画の検討、市内の文化教育施設や、美術大学等とも連携して事業を進めます。また、魅力ある講座・教室を企画、貸し館事業(コンサート・展覧会・結婚式等)も進めて、芸術文化に触れ、美術館に親しんでもらえる機会を積極的に提供します。</p>			

自己評価	b
------	---

### 第3節 文化財の保存・継承・活用

#### 3-1 : 文化財の保存・継承・活用

歴史資料や美術工芸品、建造物などの文化財は、保護するだけでなく、積極的に公開し、活用します。また、地域の民俗芸能を継承する活動を支援します。

#### (1) 文化財の保存・継承・活用

事務事業	No.4 3	史跡高遠城跡	H29 年度決算額	10,110 千円
事業の目的	昭和 48 年に藩校進徳館を含め国指定史跡となった。それ以前の昭和 35 年にはコヒガンザクラ樹林が県の天然記念物に指定されており、4 月の観桜期には多くの観光客でにぎわう。合併後の新伊那市の歴史財産である城跡の価値を損なうことなく次世代へ受け継ぎ、だれもが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりを進めるため、史跡の保存整備事業を行います。			
事業内容	・史跡高遠城跡の維持管理及び、保存管理計画等に基づき、進徳館の耐震補強工事を行いました。			
達成状況	○ 進徳館の耐震補強工事の実施			
事業の課題及び方向性	【課題】整備実施計画の短期整備計画（H17～）に基づき、残存遺構などの調査を進める必要があります。 【方向性】整備委員会の開催により後期整備実施計画を推進します。			
自己評価	b			



池上秀敏 画「旧高遠城之真景」

事務事業	No.4 4	民俗資料館	H29 年度決算額	4,579 千円
事業の目的	市内の民俗資料を継承するため、資料を収集・保管・整理・展示するとともに、体験できる施設として「高遠なつかし館」と、歴史的建造物の「旧馬島家」、「旧池上家」を企画運営します。			
事業内容	○高遠なつかし館、旧馬島家、旧池上家の企画運営			
	施設名	内容等		
	高遠なつかし館	住民から集めた昔懐かしい農具や生活用品などを展示。機織りや縄ない、蓄音機、足踏みミシンなどの体験ができる。高遠藩医を勤めた馬島家に関する資料も展示してある。		
	旧馬島家（県宝）	江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅。本棟造りの建物で、後世の改造が少なく、建造当初（天保7年（1836）頃）の形式を残しており、高遠藩当時の規模の大きな住宅の間取りを良く示している。		
旧池上家（市指定文化財）	豪壮な歴史の重さを感じる建物で、間口5間、奥行9間の町屋造り板葺きの住宅。町屋造りの家屋としては町内で最も古く、所蔵されている古文書も多い。池上家は、高遠城下で醤油や酢の自家醸造や販売を営みながら、代々町の重職を務めた。			
	○特別企画展示の開催（年2～3回） ○公民館と共催で体験講座を開催			
達成状況	○企画展 「ひなまつり展」2/2～4/24、「五月人形展」4/27～6/6 ○体験イベント ひなまつりお茶会 3/10 36人 【参考】年間入館者数6,282人（H28:4,171人、H27:3,474人）			
事業の課題及び方向性	【課題】駐車場が整備され、観桜期間中の入館者が増加しました。更に、昔を体験できる施設として広くPRし、利活用を図る必要があります。 【方向性】「観て・触って・やってみる」をモットーに、魅力ある企画展、体験講座などを実施しながら、点在する施設と周辺施設とを組み合わせた散策モデルコースを作成することにより集客できる運営に努めます。			
自己評価	b			



旧馬島家（県宝）



旧池上家（市指定文化財）

事務事業	No.4 5	旧井澤家住宅	H29 年度決算額	1,700 千円
事業の目的	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建物を保存するとともに、一般公開し活用を図ります。			
事業内容	○管理及び運営を地元「伊那部宿を考える会」に委託 ○一般公開 ・建物の概要 木造一部2階建 建築延面積 389.88 m <sup>2</sup>			
達成状況	○平成 29 年度企画行事 「端午の節句飾り」、「雛飾りと繭玉作り講座」ほか 【参考】入館者数 1,525 人 (H28: 1,638 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】 地元の歴史的施設として有効に活用するとともに、周辺施設とも関連させながら、常に魅力ある運営を継続して進める必要があります。 【方向性】 地元の伊那部宿の貴重な歴史資料を生かし、多くの来館者を誘客できる企画について継続して見直しを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 6	民俗文化の伝承	H29 年度決算額	150 千円
事業の目的	「山寺のやきもち踊りの習俗」や「中尾歌舞伎」、「高遠囃子」などの民俗文化を継承する活動を支援します。			
事業内容	中尾歌舞伎などの民俗文化の継承を図るため、国・県・市の補助・助成制度を活用した支援事業を行っています。			
達成状況	平成 29 年度事業 ○伝統文化親子教室事業（文化庁）を活用（7 団体） ○中尾歌舞伎保存会の活動支援策について検討チームにより 8 回の会合を開き、中尾歌舞伎の当面の方向性として、年一回の公演とする、中尾地域に限定せず「伊那市の単位」とした広い範囲で構成、後援会組織の立ち上げ、役者の募集は慎重に行う、小中学生が歌舞伎とのかかわりを多く持てる機会を提案していくことが決まりました。 こうした取り組みに対し中尾歌舞伎保存会は平成 30 年 4 月 29 日に再開の定期公演を実施することを決定。演目は「御所桜堀川夜討 弁慶上使の段」で 1 月から稽古を始めました。また、初めて前座として長谷小学校 4 年生による演劇「孝行猿」を演じてもらうことも決まったほか、長谷中学校 2 年生が「中尾歌舞伎ファンクラブ」を立ち上げ、全国からファンの集う活動を始めていくことも決まりました。 後援会組織立ち上げについては、3 月に発起人会を開き、先行して賛助会員の募集を行い、4 月定期公演終了後「信州伊那中尾歌舞伎後援会（仮称）」として早期に設立総会を開く方向で進んでいます。			
事業の課題及び方向性	【課題】 地域の民俗文化を伝承しようとする地域の活動や保存会を支援する必要があります。 ○中尾歌舞伎保存会が継続的な活動ができるための組織「信州伊那中尾歌舞伎後援会（仮称）」を早期に立ち上げ、広い範囲での賛助会員（個人・法人）を募集し、特に資金面で安心して活動できる体制を整えることが重要です。また、保存会の世代交代を進め、新規会員や協力者の募集を継続的に行う中で、現在までの会員は指導者に回り、新規会員が演者に回るような体制づくりを構築し、継続的また長期にわたり活動できる体制づくりを模索していきます。 ○中尾歌舞伎の公演は年一回とする中で、春の公演が良いのか秋が良いのかなど公演時期の検討をしていきます。また、今後の会員の募集等により組織の体制が整ったところで公演回数の見直しをしていき、一年間継続した保存会活動が出来る体制づくりが必要です。 【方向性】 有利な財源を確保しながら支援を進めます。			
自己評価	b			

## 第4節 スポーツ・レクリエーションの振興

### 4-1：豊かなスポーツライフの実現

いつでも、どこでも、だれもがスポーツに親しみ、心身の健康の保持増進を図るとともに、活力ある地域社会を形成するため、生涯スポーツを推進し、市民一人ひとりの「豊かなスポーツライフ」の実現をめざします。

#### (1) スポーツライフの実現

事務事業	No.47	市民体育祭	H29年度決算額	1,460千円
事業の目的	伊那市におけるスポーツの振興・推進のため、市民を対象とした当該大会を開催することにより、市民のスポーツの関心を喚起し、健康増進に寄与します。			
事業内容	○市民体育祭の開催 ( )内H28			
	種目	参加者数	種目	参加者数
	ゴルフ	184(183)人	バドミントン	151(90)人
	軟式野球(学童)	300(320)人	バレーボール	300(300)人
	〃(一般)	420(558)人	バスケットボール	131(200)人
	山岳	19(24)人	ソフトボール	310(320)人
	太極拳・気功	48(35)人	ソフトテニス	156(中止)人
	少林寺拳法	33(36)人	卓球	98(95)人
	ゲートボール	83(63)人	柔道	101(124)人
	硬式テニス	65(20)人	サッカー	170(120)人
	弓道	140(125)人	マレットゴルフ	48(72)人
	剣道	340(318)人	ソフトバレー	98(150)人
	陸上	52(41)人	スケート	8(12)人
	トリムバレー	145(161)人	綱引	32(36)人
	フットサル	207(中止)人	スキー	43(40)人
	海洋	239(513)人	パターゴルフ	29(32)人
カヌー	10(13)人	ラグビー	20(40)人	
達成状況	<p>体育協会の各専門部が種目毎に主管となって実施し、市民に最も身近なスポーツ大会として開催しています。ホームページ等の広報を充実させ、参加者を増やす方策を講じながら、継続して開催することを目標に実施しています。</p> <p>【参考】平成29年度実施状況29種目30部門(7月2日から2月18日) 参加人数3,980人(H27:4,164人、H28:4,041人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】多くの市民が参加できるよう、競技性のみでなく、普及を念頭に置いた体験型の内容や、広報を充実させることにより参加者を増やす工夫が必要です。</p> <p>【方向性】引き続き広報等PRに努め、市民が参加しやすい大会の持ち方と初心者が参加できる種目も検討し、開催します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.4 8	総合型地域スポーツクラブ	H29 年度決算額	7,398 千円
事業の目的	スポーツの振興及び市民の健康増進・体力向上を図ります。			
事業内容	総合型地域スポーツクラブの活動支援 ・スポーツ教室の開催、各種イベント・大会の開催			
達成状況	<p>市民が手軽にスポーツを楽しむことができるスポーツクラブとして、各種イベントや教室の開催を通じ、会員の登録数が着実に増えてきています。</p> <p>通年開催の講座は 90 を超えており、スポーツ以外の分野の教室も開催しています。これは、スポーツに関心のない市民にとって、新たにスポーツに取り組むきっかけづくりとなることへの期待や、多くの会員を確保しクラブの経営を安定させるなどの目的があり、先進的な取り組みと評価されています。</p> <p>平成 29 年度も市からの委託事業で、各スポーツ団体向けに指導者スキルアップ講座を開催しました。また、健康推進課から健康応援ポイント事業を受託し、市と連携して市民の健康増進に貢献しました。</p> <p>また、体育施設利用料金に対し、交付金を交付して支援を行っています。</p> <p>今後、伊那市の生涯スポーツ振興の中心を担う存在となることが期待されています。</p> <p>【参考】クラブ登録会員数 2,974 人 (H27:2,658 人、H28:3,314 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】会費については県下のクラブの中でもトップクラスであり、会費に見合う、地域ニーズにあった各種事業を開催する必要があります。今後、長年にわたり維持可能な組織・運営形態について一緒に検討していきます。</p> <p>【方向性】各種大会、教室の開催など、より多くの市民がスポーツに係われるようなクラブ運営が推進できるよう支援します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.4 9	春の高校伊那駅伝	H29 年度決算額	12,740 千円
事業の目的	長野県内の陸上長距離競技のレベルアップ及び振興を図るとともに、観光や合宿等の集客や伊那市の PR を行います。			
事業内容	春の高校伊那駅伝の実施 ・実行委員会の運営 ・関連団体や関係機関及び参加校等との連絡調整全般			
達成状況	<p>全国から注目を集める大会に成長し、男女合わせて 190 校がエントリーしました。当日は 175 チームと多くの学校が参加し、大会の充実が図られました。好天に恵まれ、応援運動やイベントなども盛り上がりを見せ、沿道からたくさんの市民に応援していただき、市民とともに作り上げる駅伝となっています。今大会も、BS 放送による全国放送を行いました。</p> <p>また、伊那市の魅力発信・合宿誘致についても、機会を得て合宿ガイドや観光パンフレットを送付し、取り組みを進めています。今大会でも、農家民泊の利用を案内し、2校が宿泊しました。</p> <p>【参考】エントリー数 1,684 人 (H27 : 1,741 人、H28:1,855 人) 出場数 175 チーム (H27:165 チーム、H28 : 177 チーム)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】陸上競技の普及・振興とともに、伊那市の PR にきわめて有効な事業であるため、観光 PR や合宿誘致等も念頭におき、「駅伝のまち」として大会を充実させる必要があります。また、参加校が増えたことから、引き続き安全な大会となるよう交通規制等について常に見直しを行う必要があります。</p> <p>【方向性】実行委員会を中心に、魅力ある安全な大会運営を進めます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.50	ソフトボールの振興	H29年度決算額	800千円
事業の目的	ソフトボールのまち「伊那市」として、毎年継続的に全国規模の大会を開催することにより、市民にハイレベルな試合観戦の機会を提供しています。			
事業内容	○全国規模の大会の開催 ○長野県ソフトボール協会へ大会補助金交付			
達成状況	○平成29年度については、次の大会を伊那市で開催することができました。 ・第50回日本女子ソフトボール1部リーグ第3節長野大会 入場者数 約2,500名 (平成29年5月20日(土)～21日(日)) ・第14回全日本一般男子ソフトボール大会 参加者数 48チーム 約1,000名 (平成29年9月9日(土)～10日(日)) また、4月に開催されている伊那市ソフトボール協会主催の「全国ハイシニア信州伊那さくら大会」は6回目を数え、スーパーハイシニアの部を加え全国から大勢の参加があります。 ○小学生女子チーム「アルプスイーナちゃんクラブ」も、継続的な活動をしています。			
事業の課題及び方向性	【課題】全国大会の誘致と、競技人口の拡大を図る必要があります。 【方向性】引き続き全国規模の大会誘致と式典の簡素化など経費の見直しを行なうとともに、ソフトボール教室の開催、指導者の育成など競技人口の拡大ができるよう、ソフトボール協会を支援します。			
自己評価	a			

事務事業	No.51	体育施設の整備	H29年度決算額	527,422千円
事業の目的	利用者の利便性向上を図るため、体育施設及び設備の整備を進めます。			
事業内容	体育施設等の管理及び整備			
達成状況	平成29年度事業 (1) 高遠スポーツ公園文化体育館耐震化工事(平成28～29年度の継続事業) (2) 伊那里体育館改修工事 (3) 伊那スタジアム防球ネット設置工事 (4) 体育施設トイレ改修工事(陸上競技場・富士塚グラウンド) (5) 伊那スタジアム北物販スペース整備工事 (6) 伊那スタジアム音響整備工事 (7) 伊那市宮野球場内野グラウンド表層整備工事			
事業の課題及び方向性	【課題】老朽化施設の整備及び施設の統廃合を順次進める必要があります。 【方向性】平成28年度に策定した「伊那市体育施設整備計画」に基づき、体育施設の計画的な改築・更新及び統廃合を行っていくこととします。			
自己評価	a			



春の高校伊那駅伝



高遠スポーツ公園文化体育館耐震化工事

【参考】

平成30年度 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書  
追加・廃止事業及び前年度自己評価から変更のあった事業にかかる評価理由

1 追加事業

No.	該当なし	

2 廃止事業

No.	該当なし	

3 前年度自己評価から変更のあった事業

No.9	学校備品整備・情報教育	b→a
企業からの寄付金等も活用しながら、タブレット端末や電子黒板、書画カメラ、パソコンなどICT機器を計画的に導入したため。		
No.21	公民館建設（施設管理）	a→b
前年度、手良公民館の建設を終了したため。		

## 伊那市教育委員会評価委員による意見

### 1 教育委員会の自己評価について

「妥当」である。

【理由】 「地域全体で子どもを育む意識」が成果を生んでおり、さらに発展することを希望する。

### 2 伊那市の教育行政及び事務事業全般について

- (1) 地域の文化・歴史・自然・芸術といった教育資源を活かした体験型活動の充実が子どもたちの心の豊かさを育んでいると実感できる。
- (2) 高遠高校への支援は大変ありがたく感謝している。高校の再編・統合の議論が進行中であるが、コース制を基軸とした多様な学びを通じ、地域で活躍できる人材育成を今後も貫いていきたい。
- (3) 漢字の読み書きや初歩的な計算など、基礎的・基本的な学力が定着せず、学ぶ意欲が低下する児童・生徒へのサポート体制を一層充実していただくよう期待したい。児童・生徒が自分の将来を悲観することなく夢を抱いて社会に羽ばたいていける環境が整うことを願う。
- (4) 学校教育・生涯学習・文化・スポーツ振興関係各分野でさまざまな取組を積極的に展開しており感謝する。その中で継続事業については、改善の余地のあるものもあると思われるので、検証を継続し、次年度以降に活かしてほしい。
- (5) 昨今、生活圏の拡大により、広域行政の枠組みや長野県との連携の必要性が高まってきており、学校教育、生涯学習、文化、スポーツ振興ともに、広域的な視野を持ち、他部署、他行政、他団体との連携強化を図ることを望む。
- (6) 多くの事業に取り組んでいることにPTAの立場から感謝する。また、経営者の立場からは、決算額から費用対効果を見てしまうが、教育現場ということで測りきれない部分があるという印象を受けた。
- (7) 市民大学も公民館事業も参加人数が示されているが、どの世代をターゲットにしているのか、それに当てはまった市民が参加しているのかが気になった。高齢者や子どもが対象になってくるのかと思うが、全世代をターゲットにするのであれば、もう少し工夫が必要であると感じた。
- (8) 各事業の決算額は、およその額でも「施設維持管理費」「人件費」「事業運営費」に分かれていると分かりやすいのではないかと。総額だと判断できないことがある。
- (9) 多くが継続事業だが、単年度のゴールをどこに置いているか分かりづらい。できる場合には数値目標を設定するなど、事業効果の検証の仕方を工夫してほしい。

### 3 各事務事業について

No.	事務事業等	意見等
1-1	総合的な学習	各学校で地域の特所を活かして取り組まれていること、そして成果を上げていることと思うが、教師の実力により成果に差異が生じることも懸念されることから、教師の資質向上に期待したい。
1-2	キャリア教育の推進	<p>一定の取り組みがなされており、その成果が高校へ上がってからも出ていると実感している。高校生にも地域と連携する考え方が出せる、そうした生徒が増えていると思う。小中学校で育まれた子どもたちの見方、考え方を踏まえ、高校も変わっていかねばいけないと感じている。</p> <p>キャリアフェスや職場体験学習が自己実現に向けた主体的な取組となるよう期待している。学習の目的をきちんと理解して参加する気構えと活動後に自らの成長を実感できるような振り返りの場面が大切だと思う。産学官一体となって積極的に取り組むべき事業である。</p>
2	学力向上	<p>積極的に取り組むべき事業</p> <p>児童・生徒が多様化する中、子供たちの抱える「学びづらさ」も多様化し、支援の在り方や成果について、絶えず分析・検討する必要がある。大規模校では十分な指導の手が入っていない子どもも少なからずいるのではないかと感じる。</p> <p>学力向上に、学力検査結果の分析と授業改善とあるが、実際は学校の勉強と、学習塾であったり家庭教師であったり、学校外の塾等の利用状況を先生が把握しているのかを含めて実施しないと、事業自体の成果が出ているのか推し量ることが難しいのではないかと。</p> <p>学力向上支援事業に関し、中学校で実施されているものは比較的周知されているが、小学校の事業は周知不足なのではないか。また、塾へ通えない児童・生徒や学習につまずきのある児童・生徒が支援事業に参加していないというミスマッチがあるのではないかと。さらに、ここ10年ほどで子どもたちの学力検査結果の差が拡大しているとの話も聞く、長期的な分析を行うことで必要な対策を講じることができるのではないかと。</p>
3	幼保小中の連携	幼保小中の連携では、こうした交流活動の成果は高校へ入ってからも生きていっていると思う。こうした取り組みの延長線上に高校での学びもあると感じており、感謝したい。
5	特別支援教育	家庭と共に協力しなくてはならず、保護者への早期のアプローチが必要と考える。医学書などの専門書・事例集などを図書館等に備え、支援員も保護者とともに学ぶことが大切である。
6	外国籍児童生徒の支援	<p>外国籍児童・生徒への支援を引き続きお願いしたい。高校での指導においても支援の参考とすることが多い。また、社会の中で孤立しやすい外国由来の保護者への支援を通して学校の理解を図りたい。</p> <p>高校も中学校の指導の様子を聞きながら「ルビつき」の問題を提供したいと考えており、労力はかかるが、小中学校の取り組みを活かしながら、高校も変わっていつている状況にあることをお知らせしたい。</p>

No.	事務事業等	意見等
7	給食運営 給食施設整備	<p>食べるということは非常に大切なことだが、家庭の忙しさから軽視され、望ましい方向から外れてきていると感じる。食育、給食のさらなる充実が望まれている。</p> <p>学校の特別行事日の給食、弁当について各校の取り扱いに違いがあると聞いている。</p>
9	学校備品整備・情報教育	<p>学校備品整備と情報教育では、ICT教育の活用の部分で高校は立ち遅れており、中学校との連携で、迎えた生徒をどういう形で社会へ送り出していくかを考えている。特に、生徒の主体性を育む部分では、高校は旧態依然とした授業で授業改善が進んでおらず、是非、伊那市の小中学校と情報交換をしたり、連携を深めながら、地域のモデルになるような授業改善に資する取り組みや勉強をしていきたい。</p> <p>ICT教育で、タブレット端末、電子黒板周辺機器の整備が進んできておりありがたい。方向性で触れられているように、日々進歩している分野で、教える先生方の負担も大きく、時間もかかると思う。教師の働き方改革にもかかわってくると思うので、外部の人材に委託するとか、もう少し予算をかければ負担が減るのかとか、そうしたところが検討課題だと思う。</p> <p>企業の方と話をすると、タブレットが普及したせいで、最近の新入社員にキーボード操作が苦手な社員が増えたとの声を聞く。多様な情報機器を操作することに取り組んでいるが、いざ、就職して企業に行ったときにどう役立つかという意味でのICT機器の使い方も検討課題の一つであると感じた。</p>
10-1	高等学校振興	<p>高等学校振興ということで、振興会から高速高校へ支援をいただいております。多くの生徒がこの支援により通えているという実態があり、職員一同感謝している。定員の確保について、様々な課題がある中で、多様な生徒に対して多様な学びのチャンネルを準備しながら社会につなげていけるような生きていく力を含めた教育を引き続き行っていきたい。</p>
11	信州大学・東京藝術大学との連携	<p>信大・東京芸大との連携に南信工科短大との連携とあるが、隣接に南信工科短大ができたので、連携に期待している。</p>
15	子どもと親の相談員配置	<p>子どもと親の相談員の配置について、中学校までいろんなところで支援いただきながら、もがいている生徒たちの中に、高校に入ると登校できる子もいる。高校入試においても、不登校を理由に不合格にするということはない。中学校では、これまで同様、焦らずゆっくり対応してもらえれば、勉強が遅れることはあるかもしれないが、高校生活に無駄になることはない。高校でもそうした状況を受け止めて対応しているので、そうした生徒についての連携も是非お願いしたい。</p>
16	スクールカウンセラー配置	<p>家庭に起因する問題に悩む生徒が増えており教員以外への相談窓口となっている一方、スクールカウンセラーへの相談もためらう生徒、医療へつなげる必要性のある生徒もみられる。SNSによるいじめ、ラインによる意思疎通など、大きく変化している社会や学校を取り巻く環境に対応できる相談体制が求められている。</p>

No.	事務事業等	意見等
17	市民大学・市民大学大学院	<p>市民大学・市民大学大学院の学生とのかかわりを通じ、地域と学校をうまくつなげていきたい。勤務校の卒業生で人材バンクにあたっても人材が見つからないこともあり、市民大学・市民大学院で学んだ方が講師として高校で活躍いただければありがたい。</p> <p>受講者にとって学習意欲が高まるとともに、他地域の方との交流の場ともなっているが、次の段階として、成果をどう生かしていくか、何ができるかを考えていく時期だと思う。</p>
23	公民館事業	<p>公民館活動は、地域づくり、地域理解の重要な役割を果たしている。文化祭や夏の学校、学校視察などの活動を通じた学校と地域の交流は子どもたちの育ちの場となっている。</p>
24 ～ 26	図書館の充実	<p>子どもたちの学習支援にとどまらず活動の幅を広げるためのアドバイスや提言を行い、歴史・芸術分野への関心を高めている。子どもたちにとって地域が身近に感じられるイベントをさらに充実して行ってほしいと期待する。</p> <p>図書館事業では、利用者数が示されているが、インターネットで、いつでもどこでもだれでも情報が入手できたり、電子書籍が広まりつつある時代になっており、個人的にも方向性があるように、「知の拠点」としての図書館はその存在感を示す努力をしていると思うし、今後もそうした方向で進めてほしい。</p> <p>蔵書はそれなりに豊富になってきているが、視聴覚関係のものがとても少ない、新しいものがないと思う。現在はブルーレイの時代である。</p> <p>図書の購入費は多額だと思われるが、充実に努めてほしい。</p> <p>図書館は公共施設だが、市民の「知の拠点」として、民間の活動にも門戸を広げてほしい。たくさんの仲間と出会え、つながれる機会を設けることで、さらに可能性が広がり情報交換の場となることを希望する。</p>
29	学校人権同和教育	<p>学校人権同和教育では、養護教諭の研修でLGBTの話があった。成長段階に応じてどういった教育が必要かは非常に難しい。長野県の高校入試で、願書の性別の記入欄に、生物学的には女性である生徒が男性欄に丸をして出してきた、中学校側が書類提出に困ったという事例があった。そういったものを持って学校生活が生活しづらい場所になることに本人も不安を感じているはずで、そうしたところをどうしていくか情報共有と研究を深めていきたい。</p>
31	少年補導委員会・少年補導センター	<p>少年街頭補導等実施していただきありがたい。高校生の問題行動ではたばこ等が買いづらくなっていることから減っているが、飲酒が目立つと感じている。伊那市内でも自動販売機で購入できる場所があり、コンビニでタッチパネルを押すと買ってしまうという現状を踏まえ、元を絶つ指導となるよう連携してやっていきたい。</p> <p>少年補導について自分たちの子どもと違って、子どもたちがわかりづらくなっている。取り組みに苦勞が伴うと思うが、頑張ってください。</p> <p>指導件数がここ2年0件というのは、しっかり調べられているのか疑問に感じる。</p>

No.	事務事業等	意見等
34	伊澤修二記念音楽祭	合併前の高遠町当時から行われていた事業だが、回を重ね同じような形式が続き内容に乏しいと感じる。東京藝術大学は熱心に取り組んでくれている。受け入れ側の伊那市、県伊那文化会館にいる専門人材の活用を図り時代のニーズに合致した事業の展開に期待したい。
38	進徳館の日	「進徳館」の学びの精神に触れることで、先人の心を理解し継承する意思が生まれる機会となっている。学習発表の場もいただき、子どもたちが大きく成長できている。さらに多くの子どもたちに触れてほしい。
43	史跡高遠城跡	歴史的に見ても、地域のフィールドとして活動している高校にとっても、心のよりどころになっている。中学校へ入試の説明会に出向いた折、駒ヶ根市や宮田村の中学校で高遠へ来たことがある生徒は少数で、上伊那管内でも、子どもたちに高遠町が知られていない。そうしたことも含めて高校が高遠の魅力を知って十分アピールしていきたい。また、さらに広く学習にとって魅力的な場所であることをピーアールしていただきたい。
44	民俗資料館	民俗資料館の方向性で、点在する施設と周辺施設を組み合わせた散策モデルコースの設定についての記載があるが、他の施設も含め集客という観点でこうした考え方は効果的であると思うので推進して欲しい。
46	民俗文化の伝承	中尾歌舞伎の話、長谷中学校の話があった。地元において、本当に長谷小中学校は頑張っていると感じている。長谷中でのジビエを使ったカレー、とうがらし（高遠てんとうまぶり）についての情報提供等、地域において刺激になる、一緒に活動したくなる真剣な取り組みをしていると感心している。しかし、少子化の進行でこうした民俗文化を支えられなくなることも危惧されることから、伊那市全体から小中高含めて、伝統文化に関心を寄せながら、自分ごととして関わっていきたい。
47	市民体育祭	市民体育祭のソフトボール競技への参加を楽しみにしている。指標として参加者人数より、チーム競技の場合は参加チーム数の方がより分かりやすい。周りでも軟式野球、バスケットボール、バドミントン、サッカーをはじめ参加を楽しみにしている市民が多くおり、引き続きお願いしたい。
48	総合型地域スポーツクラブ	地域によっては、運動部活動の延長として社会体育活動が行われており、子どもたちの学習時間の確保が困難になったり、生徒の送迎などで家庭への負担が増したりしていると聞いている。中学生の特性に応じた活動となるよう両活動の整理をしてほしい。

平成30年度

伊那市教育委員会評価委員

高遠高等学校長

服部 靖之

上伊那PTA連合会会長

向山 賢悟

伊那市女性人材バンク

山崎 圭子